

「(仮称) 子どもを守る条例」に関する市民意見聴取結果報告書 (案)

令和 2 年 11 月 6 日

1. 目的

「(仮称) 子どもを守る条例」制定にあたり、子どもや関係団体等の意見を聴き、条例の内容等を検討するための参考とするため実施しました。

2. 概要

(1) 子どもアンケート

区分	内容
対象	①小学5年生 地域を考慮して無作為抽出した市内12校の全クラス ②中学2年生 地域を考慮して無作為抽出した市内6校の全クラス
方法	無記名アンケート方式により、各学校を通じて配付・回収

(2) 関係団体アンケート

区分	内容
対象	教育・保育関係者 小学校・中学校・高校 保育所(園)・幼稚園・認定こども園 留守家庭児童会室 教育文化センターで行う指導教室等
	相談支援機関 ファミリーポートひらかた 枚方市ファミリーサポートセンター 自閉症療育センター Link 枚方市社会福祉協議会 市立ひらかた病院
	地域団体等 枚方市コミュニティ連絡協議会 枚方市民生委員児童委員協議会 枚方市PTA協議会 枚方市青少年育成指導員連絡協議会 子ども食堂 枚方子どもいきいき広場 北大阪商工会議所
方法	郵送またはメールで配付・回収

3. 実施時期

令和2年9月7日(月)～9月30日(水)

4. 回収結果

(1) 子どもアンケート

対象	配布数	有効回収数	有効回収率
小学生	1,126 件	977 件	86.8%
中学生	1,260 件	1,080 件	85.7%
合計	2,386 件	2,057 件	86.2%

※配布数は令和2年5月1日現在の児童数・生徒数としています。

(2) 関係団体アンケート

対象	回収数
教育・保育関係者	51 件
相談支援機関	18 件
地域団体等	41 件
合計	110 件

5. その他

大阪府立枚方高等学校でのワークショップ、枚方市社会福祉審議会児童福祉専門分科会及び枚方市青少年問題協議会でも意見聴取を実施しました。

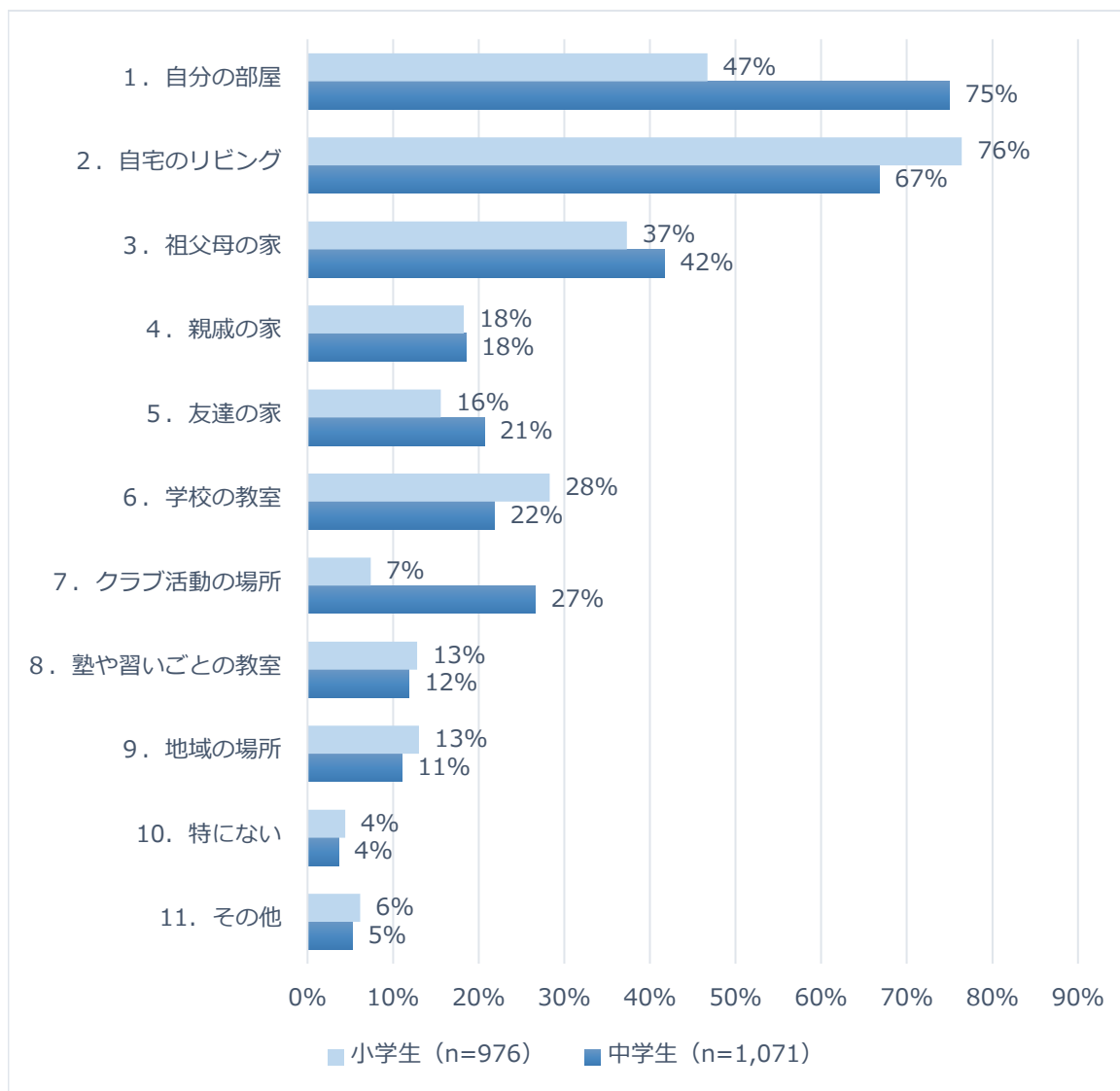
子どもアンケート結果について

1. 自分について

① 安心できる場所はどこですか。（複数回答）

小学生は「自宅のリビング」が76%と最も多く、次いで「自分の部屋」が47%、「祖父母の家」が37%となっています。

中学生は「自分の部屋」が75%と最も多く、次いで「自宅のリビング」が67%、「祖父母の家」が42%となっています。



その他の主な意見

【小学生】

寝室（ベッドの上など）・トイレ・お風呂・せまい所（クローゼットなど）・静かな場所・保健室・車の中・体育館・一人になれる場所 など

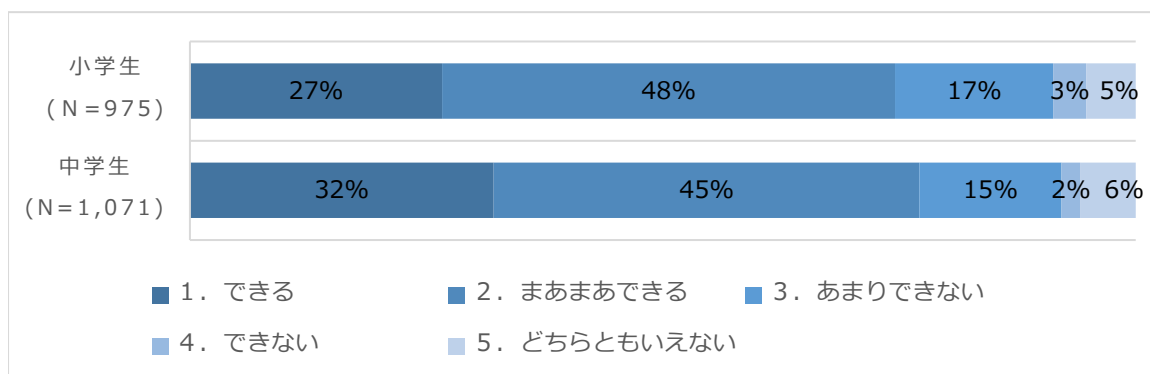
【中学生】

寝室（ベッドの上など）・トイレ・お風呂・気の許せる友達のところ・静かな場所・誰もいない場所・車の中・図書室や図書館・インターネット・SNS・神社・カラオケ など

② 自分の意見や考えを、はっきり相手に伝えることができますか。

小学生は「まあまあできる」が48%と最も多く、次いで「できる」が27%となっています。「できる」と「まあまあできる」を合わせると75%となっています。

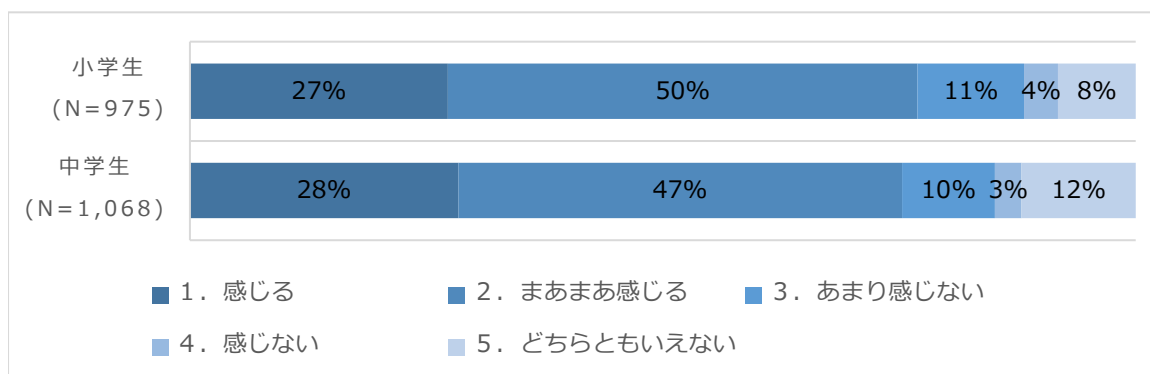
中学生は「まあまあできる」が45%と最も多く、次いで「できる」が32%となっています。「できる」と「まあまあできる」を合わせると77%となっています。



③ 自分の意見や考えは、大切にされていると感じますか。

小学生は「まあまあ感じる」が50%と最も多く、次いで「感じる」が27%となっています。「感じる」と「まあまあ感じる」を合わせると77%となっています。

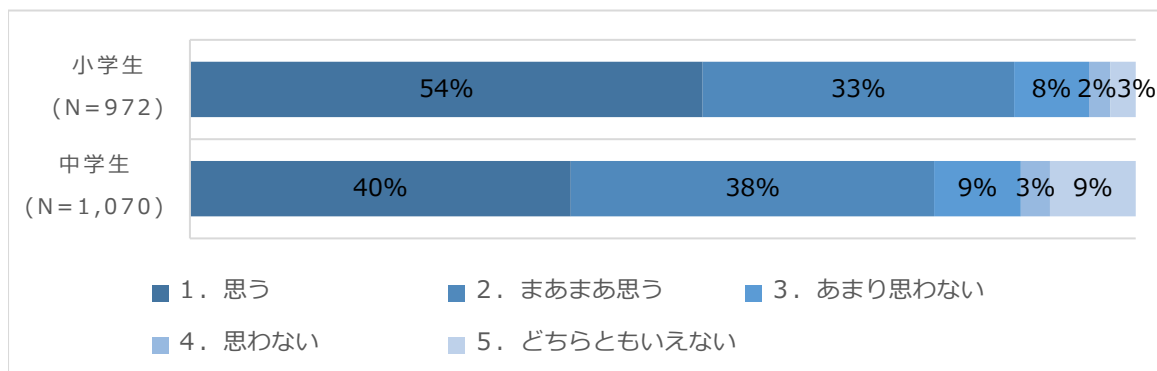
中学生は「まあまあ感じる」が47%と最も多く、次いで「感じる」が28%となっています。「感じる」と「まあまあ感じる」を合わせると75%となっています。



④ 自分自身を大切にしていると思いますか。

小学生は「思う」が54%と最も多く、次いで「まあまあ思う」が33%となっています。「思う」と「まあまあ思う」を合わせると87%となっています。

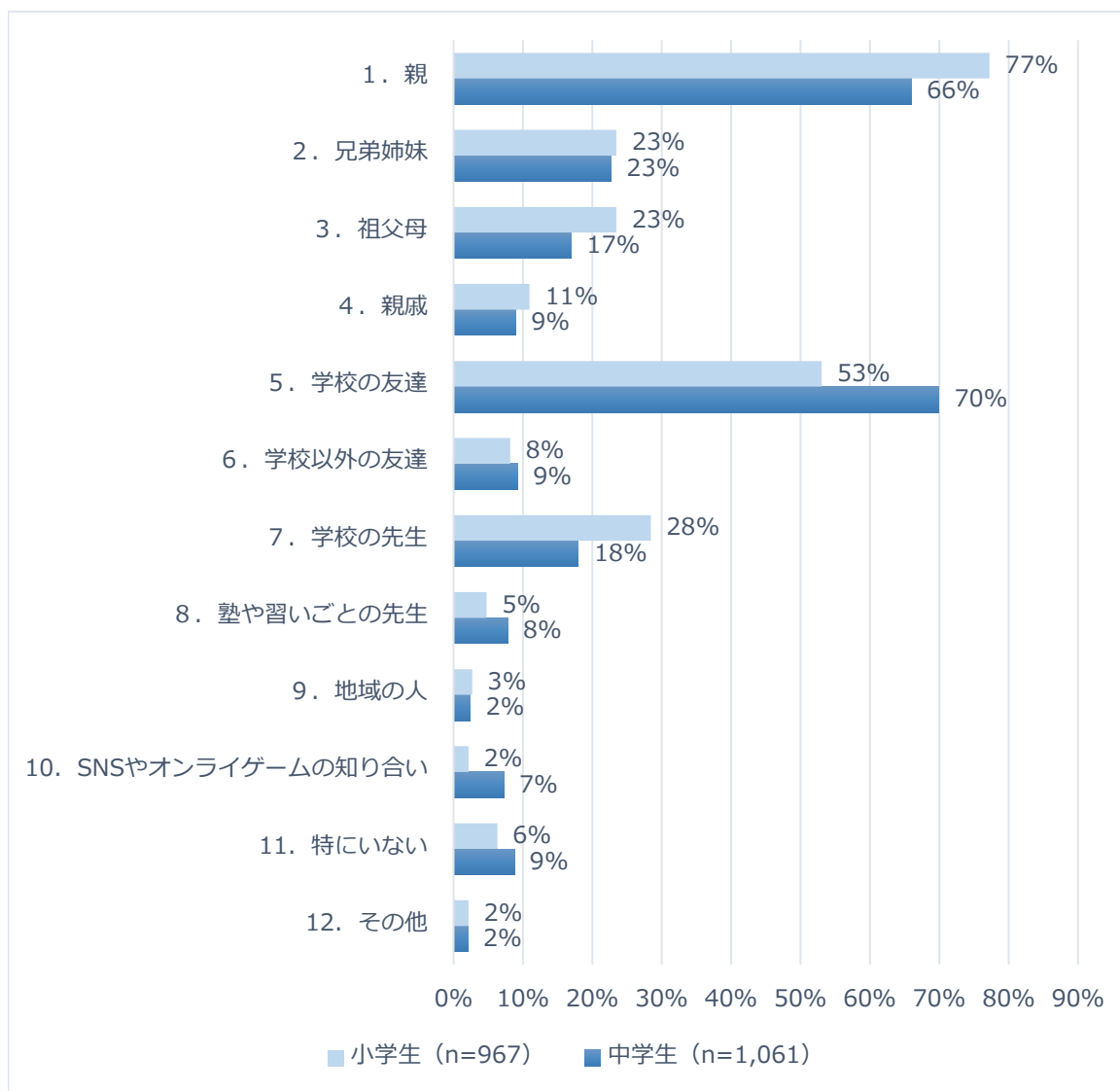
中学生は「思う」が40%と最も多く、次いで「まあまあ思う」が38%となっています。「思う」と「まあまあ思う」を合わせると78%となっています。



⑤ 困ったときや悩んだときに、相談できる人は誰ですか。（複数回答）

小学生は「親」が77%と最も多く、次いで「学校の友達」が53%、「学校の先生」が28%となっています。

中学生は「学校の友達」が70%と最も多く、次いで「親」が66%、「兄弟姉妹」が23%となっています。



その他の主な意見

【小学生】

親友・おさななじみ・誰にも言わず自分で考える・学校の心の教室の人・家族の友達・飼っているペット・ぬいぐるみ など

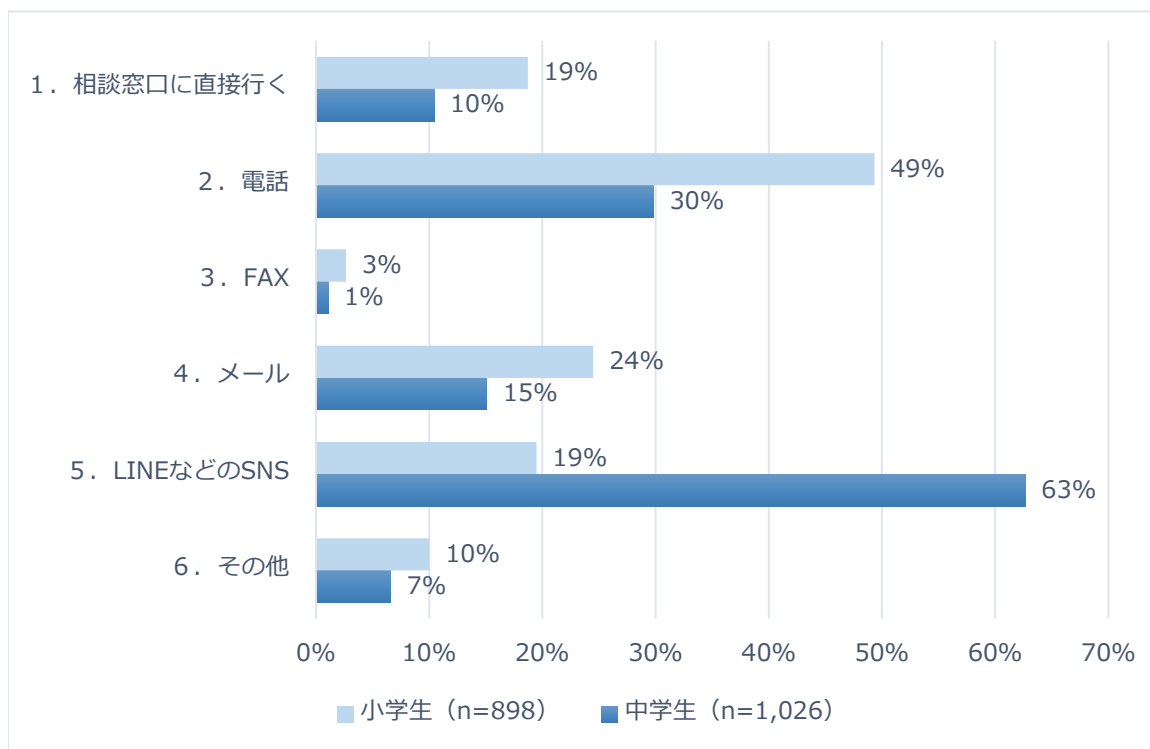
【中学生】

親友・誰にも言わず自分で考える・先輩・LINEで話す友達・親の友達・聞いているラジオのDJ・飼っているペット など

⑥ 困ったときや悩んだときに、どこかに相談するとしたら、
どの方法が利用しやすいですか。（複数回答）

小学生は「電話」が49%と最も多く、次いで「メール」が24%、「相談窓口に行き」が19%となっています。

中学生は「LINEなどのSNS」が63%と最も多く、次いで「電話」が30%、「メール」が15%となっています。



その他の主な意見

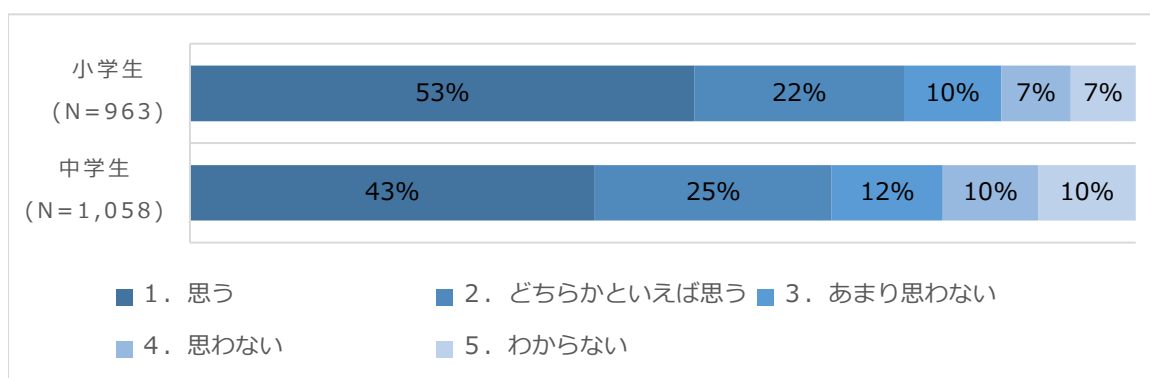
【小学生・中学生】

家族や友達に直接相談する・手紙・学校の心の教室・ゲーム など

⑦ 困ったときや悩んだときに、一緒に考えてくれたり、自分の意見や考えを誰かに
伝えたいと思ったときに、代わりに伝えてくれる大人の人がいれば、いてほしいと
思いますか。

小学生は「思う」が53%と最も多く、次いで「まあまあ思う」が22%となっています。
「思う」と「まあまあ思う」を合わせると75%となっています。

中学生は「思う」が43%と最も多く、次いで「まあまあ思う」が25%となっています。
「思う」と「まあまあ思う」を合わせると68%となっています。

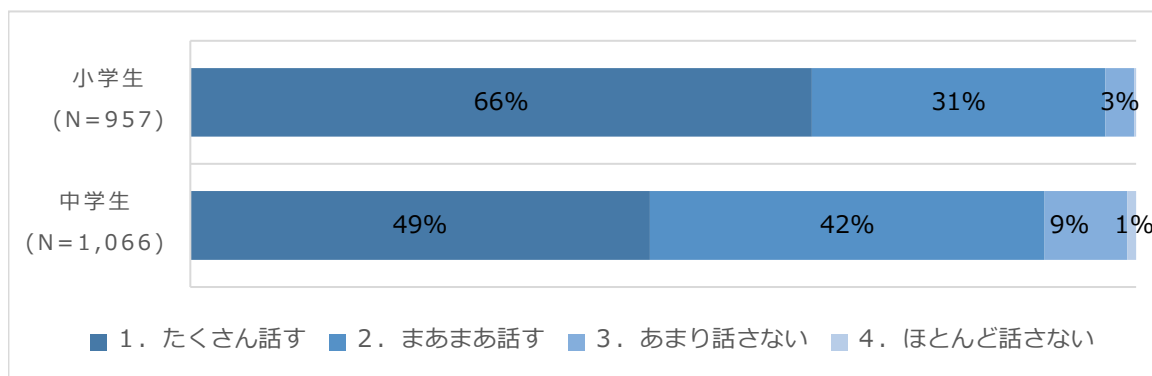


2. おうちの大人の人について

⑧ ふだん、おうちの大人の人とどれくらい話をしますか。

小学生は「たくさん話す」が66%と最も多く、次いで「まあまあ話す」が31%となっています。「たくさん話す」と「まあまあ話す」を合わせると97%となっています。

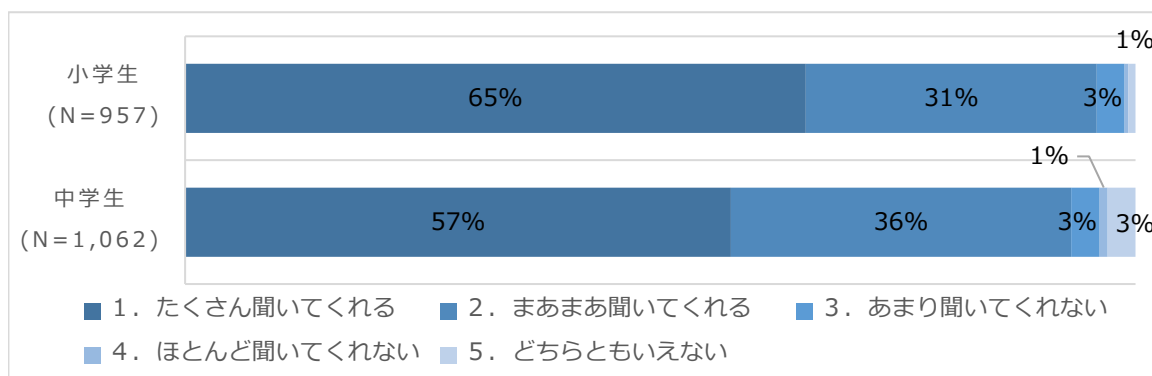
中学生は「たくさん話す」が49%と最も多く、次いで「まあまあ話す」が42%となっています。「たくさん話す」と「まあまあ話す」を合わせると91%となっています。



⑨ おうちの大人の方は、あなたの話を聞いてくれますか。

小学生は「たくさん聞いてくれる」が65%と最も多く、次いで「まあまあ聞いてくれる」が31%となっています。「たくさん聞いてくれる」と「まあまあ聞いてくれる」を合わせると96%となっています。

中学生は「たくさん聞いてくれる」が57%と最も多く、次いで「まあまあ聞いてくれる」が36%となっています。「たくさん聞いてくれる」と「まあまあ聞いてくれる」を合わせると93%となっています。

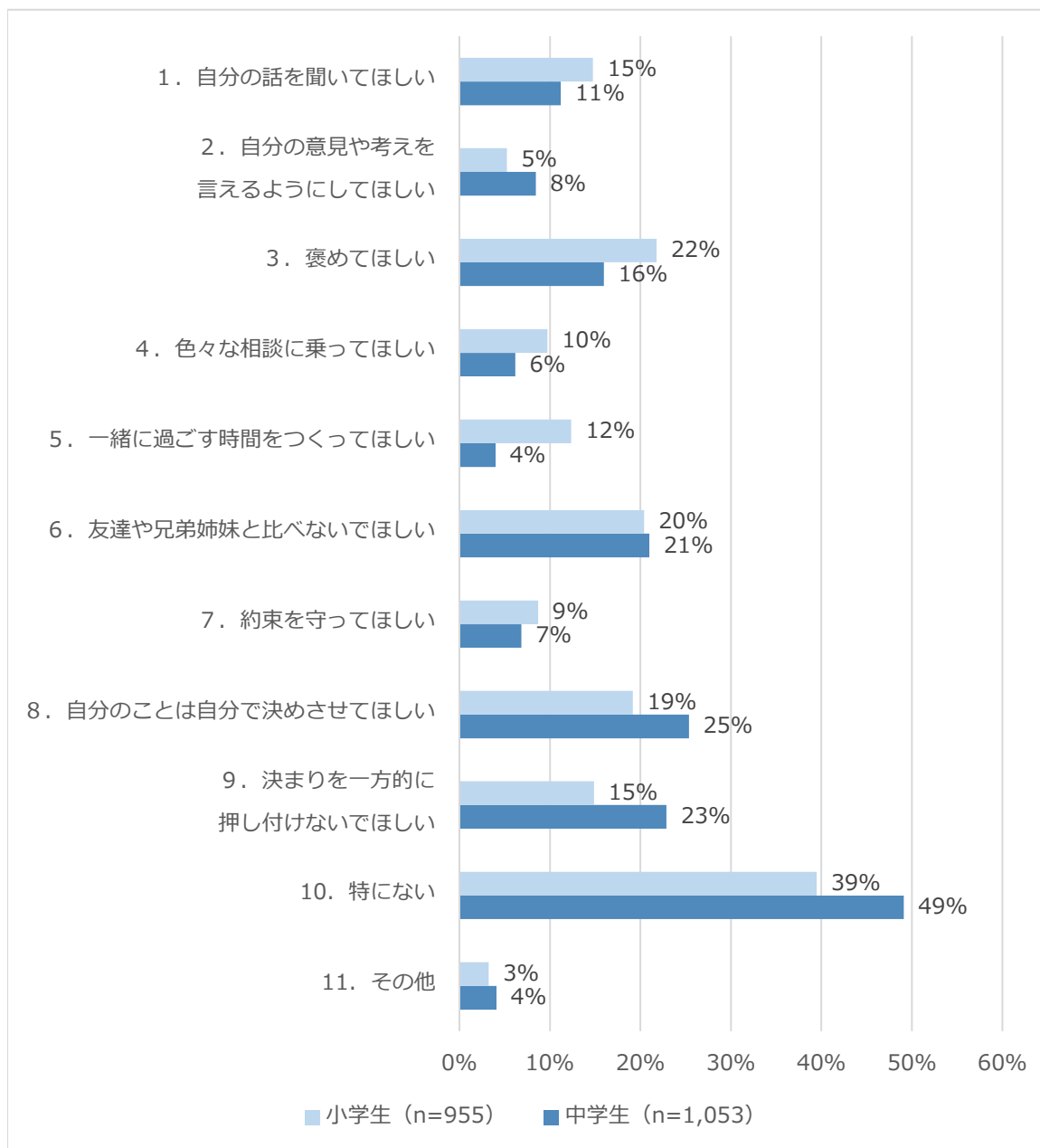


⑩ おうちの大人の人に、望んでいることや、分かってほしいことはありますか。

(複数回答)

小学生は「特にない」が39%と最も多く、次いで「褒めてほしい」が22%、「友達や兄弟姉妹と比べないでほしい」が20%となっています。

中学生は「特にない」が49%と最も多く、次いで「自分のことは自分で決めさせてほしい」が25%、「決まりを一方的に押し付けないでほしい」が23%となっています。



その他の主な意見

【小学生】

ゲームをもっとさせてほしい・八つ当たりしないでほしい・動物を飼いたい・おうちの人と2人だけの時間がほしい・もっといっしょに遊んでほしい など

【中学生】

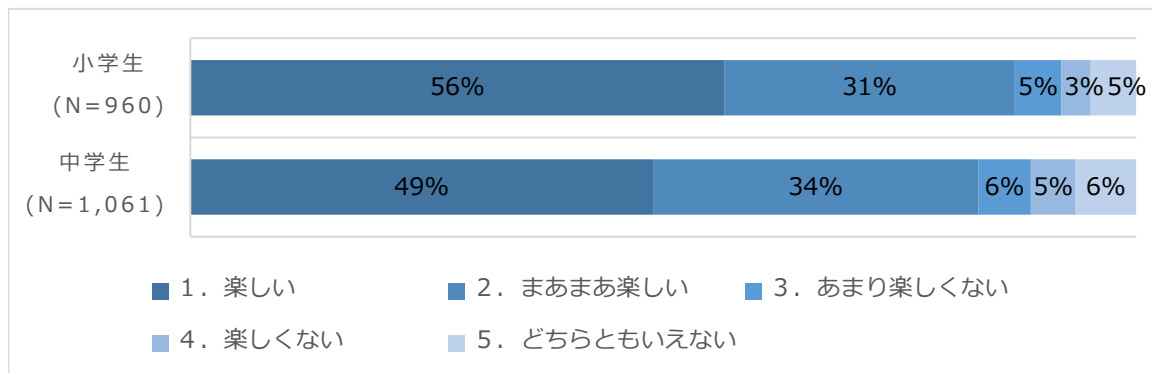
理不尽や矛盾していることをやめてほしい・もうちょっとかまってほしい・スマホの管理を自分でさせてほしい・怒鳴らないでほしい・自分の意見や考えを否定しないでほしい・ほっておいてほしい・一人の時間がほしい など

3. 学校について

⑪ 学校は楽しいですか。

小学生は「楽しい」が56%と最も多く、次いで「まあまあ楽しい」が31%となっています。「楽しい」と「まあまあ楽しい」を合わせると87%となっています。

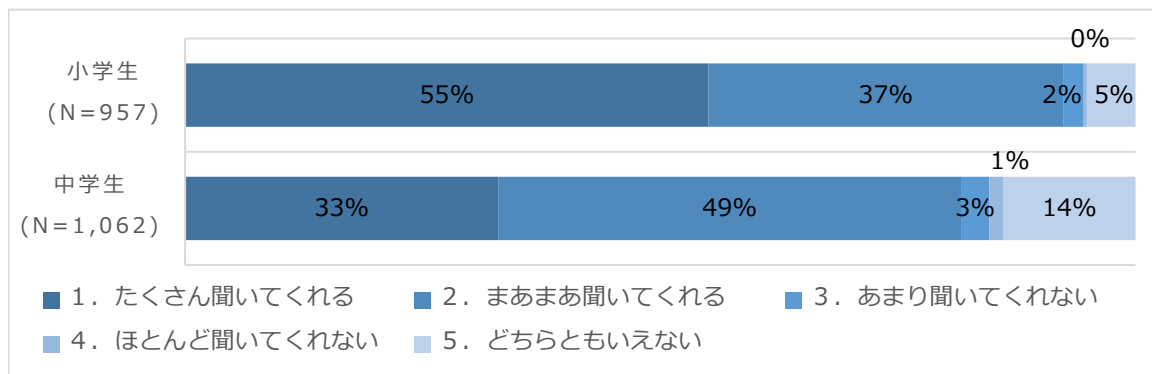
中学生は「楽しい」が49%と最も多く、次いで「まあまあ楽しい」が34%となっています。「楽しい」と「まあまあ楽しい」を合わせると83%となっています。



⑫ 学校の先生は、あなたの話を聞いてくれますか。

小学生は「聞いてくれる」が55%と最も多く、次いで「まあまあ聞いてくれる」が37%となっています。「聞いてくれる」と「まあまあ聞いてくれる」を合わせると92%となっています。

中学生は「まあまあ聞いてくれる」が49%と最も多く、次いで「聞いてくれる」が33%となっています。「聞いてくれる」と「まあまあ聞いてくれる」を合わせると82%となっています。

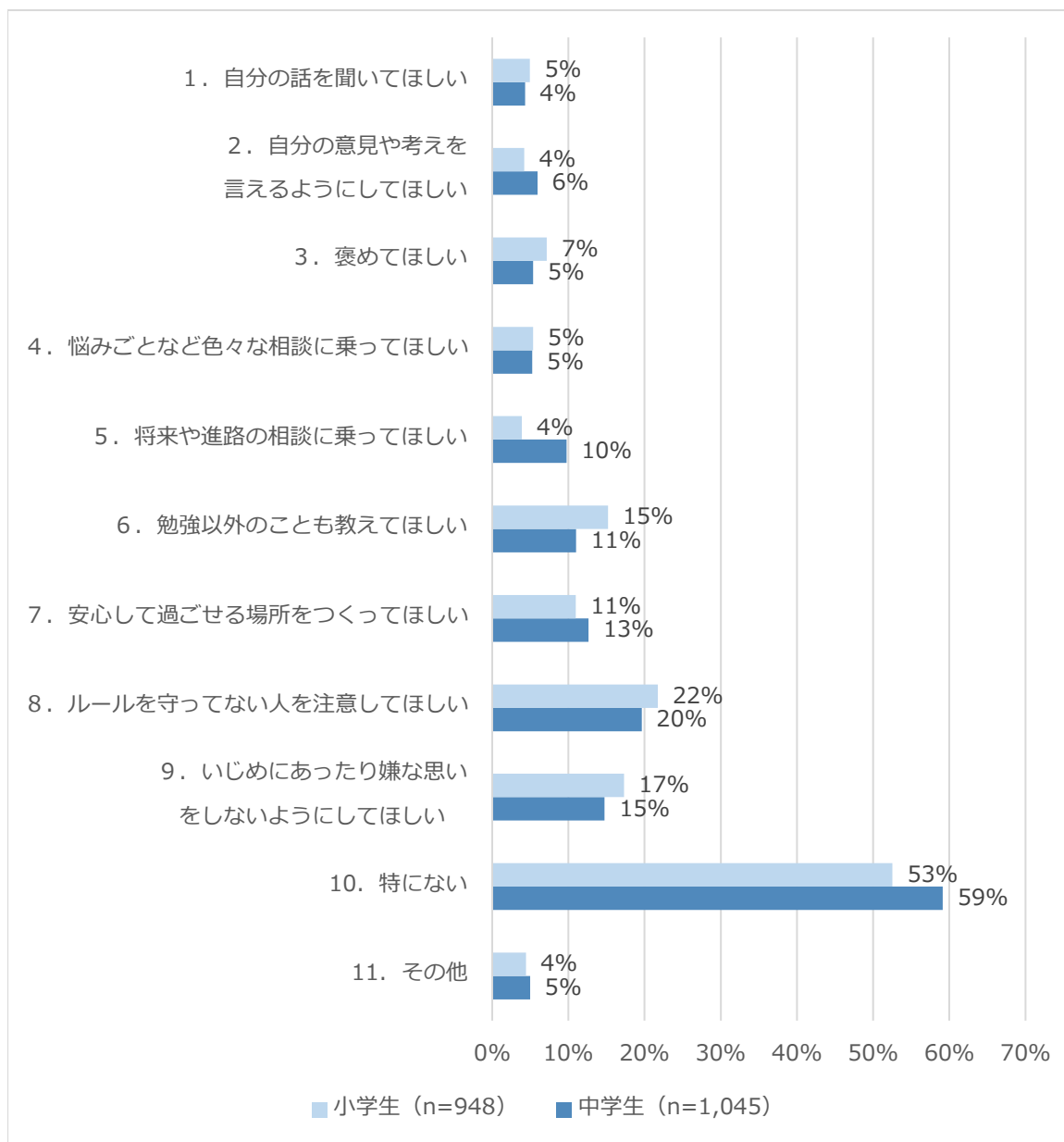


⑬ 学校の先生や学校に、望んでいることや、分かってほしいことはありますか。

(複数回答)

小学生は「特にない」が53%と最も多く、次いで「ルールを守っていない人を注意してほしい」が22%、「いじめにあたり嫌な思いをしないようにしてほしい」が17%となっています。

中学生は「特にない」が59%と最も多く、次いで「ルールを守っていない人を注意してほしい」が20%、「いじめにあたり嫌な思いをしないようにしてほしい」が15%となっています。



その他の主な意見

【小学生】

うるさい人を注意してほしい・もっと遊ばせてほしい・休み時間をもう少し長くしてほしい・トイレをきれいにしたい・いじめている人を叱ってほしい・一人ぼっちの人に声をかけてほしい・帰る時間を早くしてほしい など

【中学生】

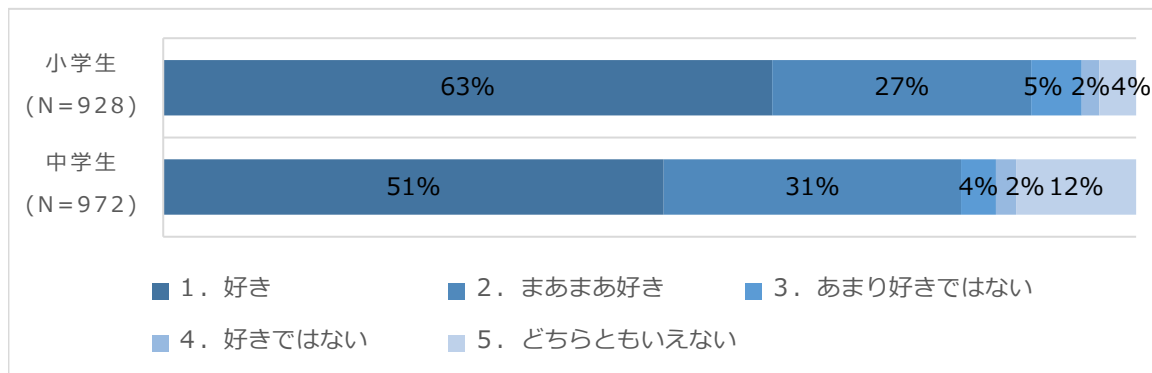
うるさい人やふざけている人をしっかり注意してほしい・平等に接してほしい・自分たちの話や意見を尊重してほしい・すぐ怒らないでほしい など

4. 住んでいる地域について

⑭ 自分が住んでいる地域（家や学校の近く）は好きですか。

小学生は「好き」が63%と最も多く、次いで「まあまあ好き」が27%となっています。「好き」と「まあまあ好き」を合わせると90%となっています。

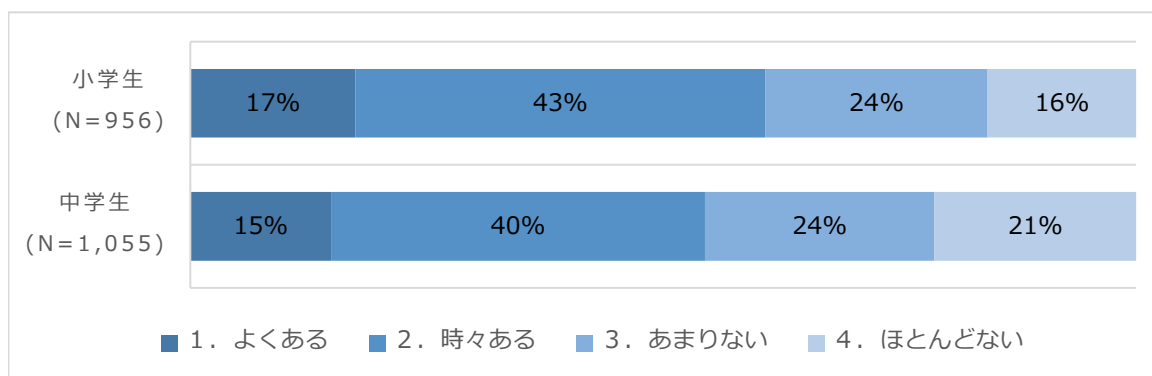
中学生は「好き」が51%と最も多く、次いで「まあまあ好き」が31%となっています。「好き」と「まあまあ好き」を合わせると82%となっています。



⑮ 自分が住んでいる地域（家や学校の近く）の大人の人と話をすることはありますか。

小学生は「時々ある」が43%と最も多く、次いで「あまりない」が24%となっています。「よくある」と「時々ある」を合わせると60%となっています。

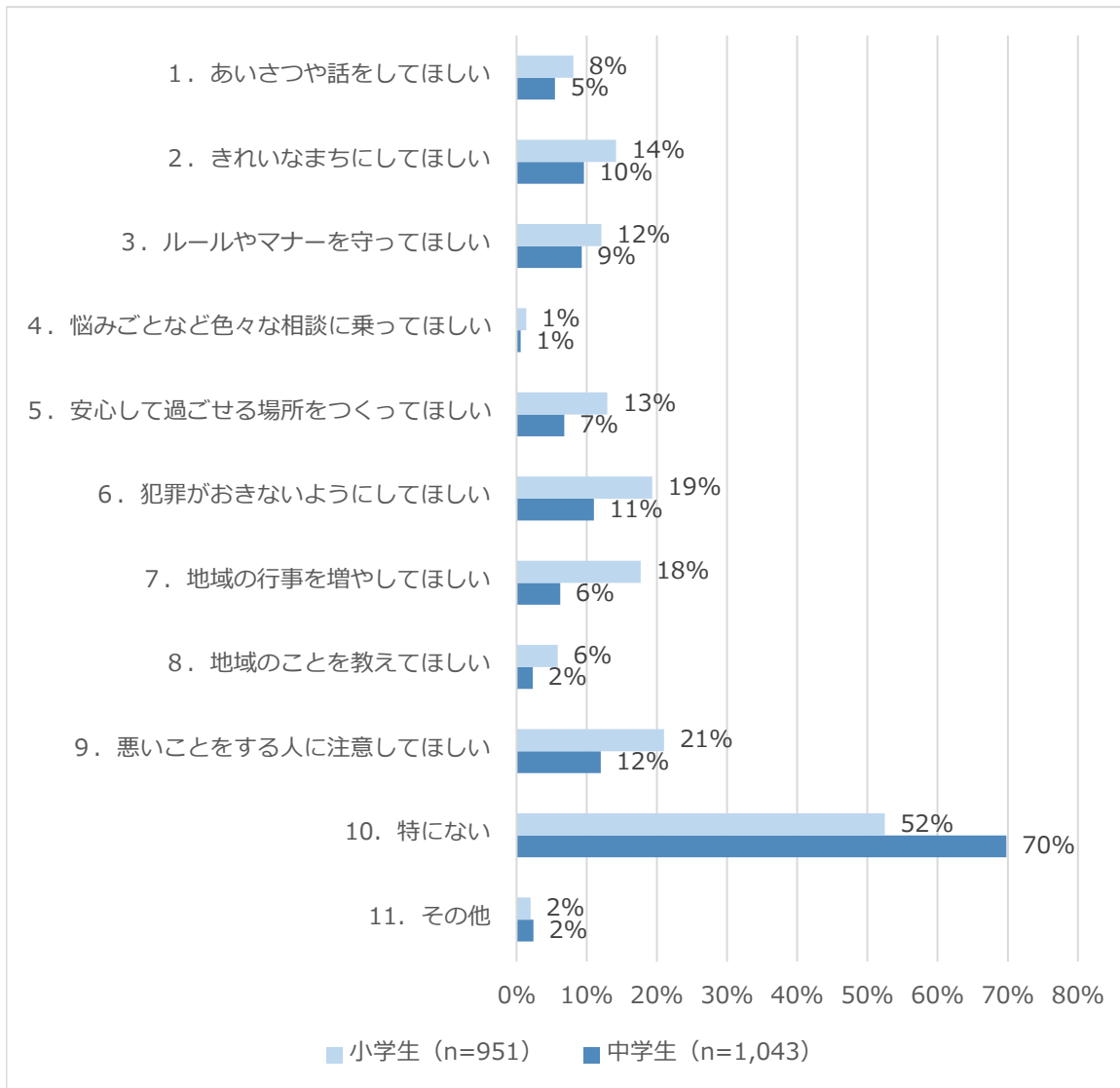
中学生は「時々ある」が40%と最も多く、次いで「あまりない」が24%となっています。「よくある」と「時々ある」を合わせると55%となっています。



⑯ **自分が住んでいる地域（家や学校の近く）の大人の人に、望んでいることや、分かってほしいことはありますか。（複数回答）**

小学生は「特にない」が52%と最も多く、次いで「悪いことをする人に注意してほしい」が21%、「犯罪がおきないようにしてほしい」が19%となっています。

中学生は「特にない」が70%と最も多く、次いで「悪いことをする人に注意してほしい」が12%、「犯罪がおきないようにしてほしい」が11%となっています。



その他の主な意見

【小学生】

近所の人が遊んでいるときうるさい・野球など遊べる場所がほしい・ポイ捨てをしないでほしい・道路に落書きをしないでほしい・楽しく仲良くできるまちにしてほしい・楽しいことをしてほしい・都市化してほしい など

【中学生】

静かにしてほしい・人の家の前で立ち話をしないでほしい・道でタバコを吸えなくしてほしい・もっと外灯を作してほしい・ルールをやわらくしてほしい・トイレをきれいにしてほしい・猫を捨てないでほしい など

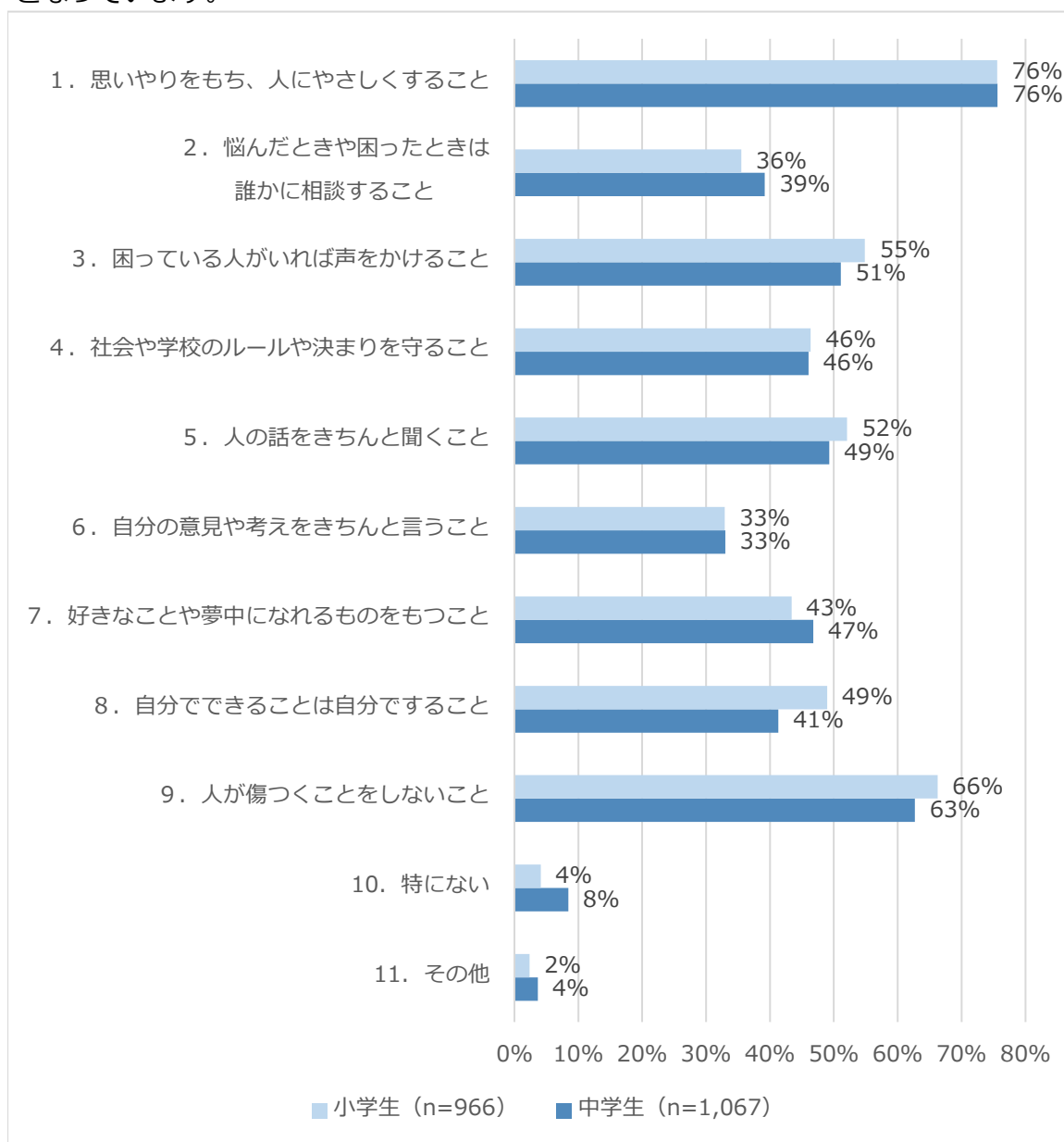
5. 大切なことについて

⑰ みんなが笑顔で過ごすことができ、つらい思いをしないために、

大切なこと・自分にできることは何ですか。（複数回答）

小学生は「思いやりをもち、人にやさしくすること」が76%と最も多く、次いで「人が傷つくことをしないこと」が66%、「困っている人がいれば声をかけること」が55%となっています。

中学生は「思いやりをもち、人にやさしくすること」が76%と最も多く、次いで「人が傷つくことをしないこと」が63%、「困っている人がいれば声をかけること」が51%となっています。



その他の主な意見

【小学生】

ひとりぼっちにさせない・みんなと仲良くする・他のことにチャレンジする・できないことを練習する・ルールを破っている人に注意する・すぐ怒らない・元気にあいさつする・人を笑わせる・暴力をしない など

【中学生】

いじめをなくす・相手の立場になって考える・人の好きなことを否定しない・差別をしない・見た目で決めつけない・笑顔でいる・自信をもつ など

⑱ その他、ふだん、感じていることや、望んでいること、「子どもを守る条例」をつくるために必要だと思うことなどがあれば、自由に書いてください。

主な意見

【小学生】

○望んでいること (地域) 見回りやパトロールをしてほしい・ボール遊びなど自由に遊べる場所を増やしてほしい・タバコのポイ捨てをやめてほしい など (学校) 宿題や授業を減らしてほしい・給食をお弁当にしてほしい・勉強をもっと教えてほしい など (大人) イライラしたり、怒ったりしないでほしい・ひとり一人にあった接し方をしてほしい・やさしくしてほしい・勇気をもたせてほしい・子ども傷つけないでほしい・子どもの意見も聞いてほしい など
○必要だと思うこと 人に思いやりを持つこと・一人で悩まないで相談すること・いじめなど人の嫌がることをしないこと・社会や学校のルールを守ること など
○その他の意見 もっと本を読む・みんな一人ひとり違うからそれぞれ違うやり方でがんばる・笑顔のたえないまちにする・若い人もボランティアをすればいいと思う など

【中学生】

○望んでいること (地域) 道路の整備をしてほしい・タバコのポイ捨てをやめてほしい・自由に遊べる場所をつくってほしい (学校) 地域の人と関わるイベントをしてほしい・生徒の意見に耳を傾けてほしい・いじめのアンケート等を家で書けるようにしてほしい・髪型やメイクなどの校則をゆるくしてほしい・静かに授業できる環境をつくってほしい・ネット授業をしてほしい など (大人) 平等に接してほしい・一方的に怒鳴ったりしないでほしい・夢を否定しないでほしい・もっと自分の好きなことをいっぱいさせてほしい・自分のことはある程度自分で決めさせてほしい・意見や話を最後まで聞いてほしい など
○必要だと思うこと 他人の意見を聞くこと・思いやりをもつこと・相談しやすい環境をつくること・自分や他人の意見を大切にすること・気配りや声かけをすること・ルールを守ること など
○その他の意見 LGBTや性別についての考えを深めてほしい・SNSでのトラブルが多い・悩んでいる人が自分を出せるので、こうゆうアンケートは増やした方が良くと思う・匿名の相談はしたいけど、『いつでも』、『LINE』がいい・困っていることがあるか聞かれても、言えないこともあることをわかってほしい・子どもにも権利を作してほしい など

(参考) クロス集計

「質問④ 自分自身を大切にしていると思いますか。」の問いに対して、
「3. あまり思わない」「4. 思わない」と回答した子どもの他の質問に対する回答

① 安心できる場所はどこですか。(複数回答)

	2. 自宅のリビング	3. 祖父母の家	6. 学校の教室	10. 特にない
小学生	47%	26%	13%	11%
(下段は全体)	76%	37%	28%	4%
中学生	46%	22%	12%	7%
(下段は全体)	67%	42%	22%	4%

①の質問に対しては、全体と比べて全体的に低くなっていますが、小学生・中学生ともに、「2. 自宅のリビング」や「6. 学校の教室」が大きく低くなっています。

② 自分の意見や考えを、はっきり相手に伝えることができますか。

	3. あまりできない 4. できない
小学生	40%
(下段は全体)	20%
中学生	37%
(下段は全体)	17%

③ 自分の意見や考えは、大切にされていると感じますか。

	3. あまり感じない 4. 感じない
小学生	43%
(下段は全体)	15%
中学生	40%
(下段は全体)	13%

②・③の質問に対しては、「3」・「4」が小学生・中学生ともに、全体と比べて高くなっています。

⑦ みんなが笑顔で過ごすことができ、つらい思いをしないために、
大切なこと・自分にできることは何ですか。(複数回答)

	2. 悩んだときや困ったときは誰かに相談すること	4. 社会や学校のルールや決まりを守ること	6. 自分の意見や考えをきちんと言うこと	8. 自分でできることは自分ですること	10. 特にない
小学生	19%	30%	18%	29%	15%
(下段は全体)	36%	46%	33%	49%	4%
中学生	31%	40%	19%	38%	10%
(下段は全体)	39%	46%	33%	41%	8%

⑦の質問に対しては、全体と比べて全体的に低くなっていますが、小学生・中学生ともに、「6. 自分の意見や考えをきちんと言うこと」が大きく低くなっています。

関係団体アンケート結果について

【意見の概要】

質問①

大人の考えだけを押し付けることなく、子どもの思いや意見に耳を傾け、その子にとって将来的にも最も良いことを第一にして子どもの育ちを支えるために、必要なことや考えられる取り組みはどのようなことがありますか。また、問題点等がありますか。

- 子どもの思いに寄り添うこと・自己肯定感を育むこと・子どもに合った関わり方をすること
- 子どもの主体性を育むこと
- 様々な体験をすること・多様な人と関わりを持つこと
- 保護者(家庭)への支援・啓発
- 周りの大人がゆとりを持つこと・大人への啓発

質問②

子どもが将来に向け自己を確立し、社会的自立を果たしていくために、子ども自身が主体的に生きる力を育むには、どのような取り組みが必要だと考えますか。また、そのためにできる取り組みはどのようなものがありますか。

- 自己肯定感を育むこと・自分を大切にすること
- 多様な経験をすること・他の子どもとの交流・協調性を育むこと
- 社会のルールを理解すること・守ること
- 自分で考え行動すること・自分で決めること・自分の考えや意見を発信すること

質問③

核家族化が進む中、保護者だけで子育てを抱え込むことなく、周りの大人を含めた地域全体で子育て家庭を支援するためにはどのようなことが必要だと考えますか。また、そのためにできる取り組みはどのようなことがありますか？

- 地域と連携すること・地域活動の活性化
- 交流の場の提供・居場所づくり
- 相談・支援体制の充実について
- 情報提供・周知活動について
- 各機関の連携

質問④

子どもの課題が多様化する中、より良い支援を子どもに届けるためには、さまざまな分野の情報や人材、ノウハウ等を連携させることが必要ですが、連携する際に困ったことはありますか？困ったことがあれば、具体的な事例と連携にあたって必要と思われることを教えてください。

- 各機関・各分野での密な連携・関係づくり
- 各分野での情報交換の場の設定
- 子どもに関する情報の共有・一元化について
- 人員の確保・体制の整備

質問①

大人の考えだけを押し付けることなく、子どもの思いや意見に耳を傾け、その子にとって将来的にも最も良いことを第一にして子どもの育ちを支えるために、必要なことや考えられる取り組みはどのようなことがありますか。また、問題点等がありますか。

○子どもの思いに寄り添うこと・自己肯定感を育むことが必要であるという意見が多く、そのために、子どもの思いを聞くことや、それぞれの子どもの年齢や個性にあった関わり方をすることが大切であるという意見が多かった。

○自分の意見を言うこと・自分で考え行動することなどの「主体性を育むこと」や、地域活動等、様々な体験をすることが必要であるという意見が多かった。

○子どもの育ちを支える第一義的な責任がある保護者や、子どもの育ちを支える周りの大人への支援・啓発が必要であるという意見が多かった。また、現状として、大人にゆとりがないことが問題であるという意見も多かった。

子どもの思いに寄り添うこと・自己肯定感を育むこと・子どもに合った関わり方をすること

子どもと向き合うこと、子どもの思いに寄り添うこと。(5 件)
自己肯定感を育むこと。(4 件)
子どもの目線になって一緒に考えること。(3 件)
定期的に懇談やアンケートなどで子どもの思いを聞く場を設ける。(4 件)
子どもの持っている長所を引き出すようにすること。(3 件)
それぞれの子どもの年齢や個性に合った関わり方をすること。(2 件)
どのような場合も、子どもが思いや考えを発信したとき、大人が向き合い受け止め、自己肯定感が持てるように育ちを支えていくことが子どもにとっての最善の利益に結び付くと考え。また、子どもは「子どもの中で育ちあう」ことを大事にしたい。
親として、愛情を持って子供と接し、自分の行うべき仕事を真摯に取り組む姿を見せる。
個人の個性を認め、承認欲求を満たせるような声掛け、接することが日頃からの取り組みの中で必要なことだと考える。
保育者が、子ども一人ひとりをありのままに受けとめること。
子どもの個性を大切にする。人格を否定しない。
親は子どもに対して期待や理想や成長過程において「こうあるべきだ」という考えを持つことは当然であるが、それを子どもに押し付けることは決して子どもの利益にはならない。子どもの心身は日々成長し変わるものであるから、何が子どもにとって最善の利益であるかということを子どもに寄り添う中でくみとらねばならない。
子どもの発言中、話し方、内容などについて口をはさまない。
対面ではなく、より添う形(横にすわり、目を合わさず)で話を聴く。
解決手段よりも、気持ちの理解に重点をおいて話を聴く。

「上から目線」「軽い応答」にならないよう注意深く発言する。
子どもの考えていることを知るのが第一と考える。一つのことを子どもと共同でやってみて、子どもに足りないところを助言する。
親を通さず相談できる電話やメールなどの相談窓口の充実に取り組む。
子ども意見板や投書箱を用意。

子どもの主体性を育むこと

自分の考えや意見を発信できる場を設ける。(5 件)
必要以上に声かけや手伝いをせず、子どもが自分で考え、行動できるよう見守る。(5 件)
学習は自分ができる所から始める。子どもの活動も子ども自身が参加の可否や内容を決めている。
保護者の意向に左右されず、子どもが主体的に活動できる予算と人員の確保。
子どもに対して様々な場面で問題を投げかけ、考えさせる習慣を身につけさせる。
信頼できる大人との愛着関係を軸に、まずは自分の思いを出せるように支援していくことが大事。
子ども自身が友達にも大人にも、Yes、No を含め話す事ができるよう、自立を見守り指導する。
方向性は職員が示した上で、子ども達がそのことについてふだん感じている事や意見を出し合い、職員と子どもで決めていく。自分のした事・言ったことに責任を持てる人になるよう、職員も子どもも決めたルールはお互いを守る。
子ども達が自主的・主体的に考え判断するテーマを取り入れる。
様々な行事や遊びの取り組みの中で、子ども達の意見を受け止め、やりたいことをどのようにすれば実現していけるかを、考えたり、試したり出来る保育に努めている。その中で、自分の考えたことを人に話したり、人の意見を受け入れたりしながら話し合い、一緒に共通の目的に向かって取り組めるようにしている。
根拠を持って子どもに説明をする。また、自身で体験したことが一番の学びとなると考えるので、見守りのもと、子どもの考えたことを実施させる。間違えに気づけたときにはフォローを行う。
子どもも地域住民の一員であることを念頭に各種行事に子どもの考え、意見を反映させる。

様々な体験をすること・多様な人と関わりを持つこと

いろいろな体験や経験をすること。(3 件)
地域活動を通じて、子どもと信頼関係を築くこと。(2 件)
遊びや活動を通して「遊びが学び」になる保育を充実させる。又、自然や命あるものへの感動体験を大事にする。今を存分に子どもらしく生き、子どもらしく夢中になれる体験を大事

にする。「非認知能力」(見えない心)を重視することが、子どもたちの成長に大切である。
子どもたちが安心できる大人や子ども集団の中で、人とかかわりを通して一緒にして楽しかった経験や、どんな思いも出していいんだ、決めていいんだと思いを受け止めてもらえた経験ができる取り組み。
毎日の保育所での生活の中で、大人や子どもとの信頼関係を深める、好きな遊びをたっぷり保障することが一番だと思われる。できる限り裏山の自然に触れたり、子どもが五感を働かせられる保育を目指している。
より多くの子どもや異年齢と関わりをもつ事。
子どもをとりまく社会状況や課題をふまえた活動を実施する。
学校等の教育(道徳)時間に地域の人とのディスカッションの場を設け、子ども達の今の考えを実際に聞きたい。
子どもたちだけで遊んでいる際の安全、防犯性。
地域の人や専門的知識のある人材など多様な人々が活動に関わる。
子どもの意志及び思いを親が判断して、地域の行事に参加されていない。
思春期の子どもたちに赤ちゃんや幼児と触れ合う経験をさせてあげてほしい。どんなに大切に育まれてきたかを知り、また生まれてきた命の尊さを感じてほしい。その体験を通して、人を大切にすることや、相手を尊重する気持ちが芽生えてくるはず。

保護者(家庭)への支援・啓発

子どもの育ちについて、保護者に対する啓発活動。(6件)
家庭への支援。(3件)
親も何が正解なのかが分からず、お手本が無い中での子育てに苦労されており、そんな時は親の悩みを聴き共感しながらも、親としてのあるべき対応を示唆することもある。 園等で保育・教育を行う中では、子どもの言葉や行動だけを見るのではなく、その子の置かれた背景を深く理解し、心の声を聴く姿勢が求められる。
支援を必要としている家庭であっても、その親なりの子どもへの愛情は持っておられるので、その子の為に今、何を親としてなすべきなのか考え行動してもらえるように話をしている。
大人が子どもに対等な位置で向き合い、感情的、否定的、脅迫的な声掛けをしているが、そのことをしつけないととらえてることがある。親子共に辛く、そこへの支えが必要となっていく。
親子関係を見ると、子育て中だが親である自分の思いが優先し、子どもに合わせるより、大人の生活や時間の中で過ごし、子どもの育ちに弊害がみられるケースが目立つ。
親へのサポートが大切だと思う。核家族化、少子化により、子育てを知らない、学べない環境の中、育ってきた人々が親となり、子育ての難しさを抱えていると思います。
子どもに関わったことがないまま、母親、父親になるため、「子どもの姿の理解」ができず、子どもの思いなどの主張とわがままが見極められず、子どもの思いを結果的に受容してし

まい、関係性がうまくいかず怒鳴ってしまうことも多く見受けられる。子どもの力を引き出すことのできる余裕も見通しもない状況に向き合うことのできる場、機会をたくさん作ることが必要だと日々感じる。
子どもの思いや意見に耳を傾ける事は大事だが、子ども自身が思いを表現できることが大切であり、そのように育つ環境が最も大事である。家庭が十分でない場合はサポートが必要であり、子ども自身がこの人になら思いを伝えられるという大人がいることが大事である。

周りの大人がゆとりを持つこと・大人への啓発

周りの大人が心にゆとりを持って子どもに接することが大切。(3 件)
子どもを支える大人への学びの機会の提供。(3 件)
子どもの思いを受け止められる大人が身近にいること。(2 件)
少人数の学級や、ゆとりのある教職員の人数があれば、もっと子どもに寄り添った取り組みができると思う。
個々の発達を見極める力を大人がつけ、愛情をもってかかわること。
関わる大人の意識改革。
大人の考えを押し付ける古い教育観からの脱却を目的に保護者・地域社会への啓発活動を行う。
「子どもの権利条約」の内容を地域住民に広げ、子どもの見方を変える取り組み。
ありのままの子どもの姿をきちんと受けとめ子ども理解に努めることが大切であり、そうした教育目標を共通理解し、研鑽を積み重ねられる人的環境の配置が必要だと感じる。
支援を要する子どもも増えてきている中、基本的な知識や免許、資格を有する職員を十分に確保することが課題だと思う。
家庭は子どもにとって最初で最後の拠所であることから、子どもが家庭で快適に過ごせるよう、親に対しては、子どもは親の所有物でも支配物でもないことを、行政機関が社会全体に絶えず啓発する(長期的な取組みとして、学校教育のなかでも取り組む)。有害な情報のチェックと情報提供者やスポンサーへの指導・要請を行う。

その他

子どもの課題の早期解決・予防のための取り組み。(3 件)
学校教育の見直し。(2 件)
協調性をつけてあげるようにする。
相談機関をもっと増やす。スクールソーシャルワーカーの訪問回数を増やす対策をする。行政の手が足りていない部分を民間委託する。
多様性を享受する時代に、利益と不利益の線引きを考える必要があるのでは。

質問②

子どもが将来に向け自己を確立し、社会的自立を果たしていくために、子ども自身が主体的に生きる力を育むには、どのような取り組みが必要だと考えますか。また、そのためにできる取り組みはどのようなものがありますか。

○幼少期から、大切にされることや、ほめられることにより、自己肯定感を育むことが必要であるという意見が多かった。

○職業体験など多様な経験をする事、地域活動等により他の子どもと交流すること、また、そのような経験から協調性を育むこと、社会のルールを理解することが必要であるという意見が多かった。

○自分で考え行動し決めること、また、自分の考えや意見を発信することが必要であるという意見が多かった。

自己肯定感を育むこと・自分を大切にすること

自己肯定感を育むこと。(5 件)
子どもの行動をほめ、自信をつけさせること。(3 件)
自己肯定感を高める。自分の身体を大事に思うこと、周りや人にも感謝する心を育てる。
自己肯定感・自尊心を持てるように、子どもの行動・言動を否定しない。大人の考えを伝え、子どもが自分で考え、自己決定できるように待つ。行った行動等の振返りを一緒に行い、自分で気づき修正できるよう支えていく。
愛され優しくされる経験から人にも優しくすることができ、自己肯定感をもちながら自分は自分でいいと自信が育っていく。また、周囲の人との関係性に目を向け、自己決定しながら主体的に生きていく力を育むことができるようになる。
幼児期から、子どもが自ら「やってみよう」と心を動かして生活や遊びに取り組むことができるような環境づくりをしていくこと。取り組もうとした気持ちを受け止め、認め、「次もやってみよう」という気持ちを育てていくこと。自分はできるという自己肯定感を育むこと。
ある日突然ある年齢に達したからと言って、主体的に生きる力が育つものではありません。出生直後から、人として慈しまれ大切に育まれてこそ安心して自我が育ち拡大充実し、自分は自分で大丈夫だと思える様になり、自信を持って主体的に生きる力が育つ。人としてどう生きるのかを常に自分自身に問いかけ、自分を振り返る習慣をつけた大人との関わりにより主体性が育つと思われる。
家庭における「愛着」という貴重な体験を味わうこと。園、学校においても、愛着が必要だと感じる。「ありのままでもいいんだよ～」という無条件で受け止めてもらう実感。
乳児期には基本的欲求を十分に満たしてもらい、心身ともに安定して過ごすこと。生活の中での小さな変化や成長に気付いてもらい、充実感や達成感を得ること。
自我を確立するためには自分の思いを幼い就学前に受け止めてもらえる経験を持つこと。

したいことをしっかり主張し実現できる環境があること、人との信頼関係を結べる基本を確立することが必要。
自分と向き合いしっかり受け止めてくれる大人が傍にいてくれること。愛着がもてる人との関係性が必要。
自分の中のどんな思いも安心して、言葉等に出せ、それを受け止め聞いてもらえる大人や場所が、家庭が無理でもその他に社会で自立するまで保障・継続されること。
関わる大人が、子ども一人ひとりを大切にし、考えや意見にたどり着いた気持ちに寄り添う。

多様な経験をする事

多様な体験をすること。(5 件)
職業体験の機会を設けること。(4 件)
生きること・命に関する学習に取り組むこと。(3 件)
五感を育む活動(様々なものに触れ、感じることに応答してもらう)
複数のクラブ活動を奨励する取り組み。
子どもが興味を示すものを伸ばせるようなイベントを実施すること。
子どもたちにとって、心を動かされる体験が考える力になる。
ボランティア体験を通じて子どもたちの主体性を育む。
「野外活動等自主活動の研修」の受講促進に取り組む。
自宅から離れ、校学学習。
試験のための学習ではなく、失敗してもいいので総合的な学習の時間を使った体験学習を充実させることがよい。様々な分野の体験により、自分が楽しいと思うものを見つけられるようにする。
バーチャルではなく、実体験が大事で、感情の変化がみられ感性豊かな心を育てていけるように、大人が意図的にでも環境設定をしていくことが大事と考える。
小さなグループワークで体験学習をすることにより一人一人の可能性を見出していく。
幼いころから家業に関わらせる。仕事を楽しむ自分の背中を見せ、楽しさを感じさせる。
自然環境、福祉ボランティア、国際理解、情報教育などを取り入れ、子ども達が魅力を感じ、課題を解決しようとする意欲を育てる。そのためには子ども一人ひとりを大切にし、適切に助言、評価、励ますことが重要。
学校だけでなく、地域などで協力して学ぶ機会があれば、主体的に物事を考える力を養うことができます。
失敗しないように守るのではなく、失敗から立ち直るときに力を貸すべき。いろんな経験をたくさんさせることが必要だと思う。子どもだからできないと決めつけずに、子どもを信じる気持ちを大人が養う必要があると思う。
日々の学校生活の中に、子ども自身が主体的に生きる力を育む姿勢が身につくプログラム

があればと思う。
子どもたちの自立を促すにあたって、「成功体験だけでなく失敗体験からも学ぶことがある」と大人から子どもたちへ教えてあげることが重要だと感じる。「トライアル&エラー」の重要性を学校や家庭内で教えることが一番良いと考えるが、各々方針があると思うので、まずは希望者向けに放課後や土日にワークショップを用いた指導を検討してはどうか。
多様な価値観を学ぶ機会の充実強化に取り組む。
進路等、可能性があるなしに関わらず、情報提供を子どもがわかるように行うことが重要。小中学校での子供の福祉サービスを紹介する時間を設ける。

他の子どもとの交流・協調性を育むこと

役割を持たせ、地域行事への参加を促進すること。(5 件)
年齢の異なる子どもと交流すること。(2 件)
他の地域の子どもと交流すること。(2 件)
他の人の考えや意見や思いを柔軟に受け入れられる力、又、自分の考えや思いを伝えていける力が必要だと思います。その為にも、自分も受け入れられて嬉しい、という喜びをたくさん感じられる機会、色々な人と交流できる機会等を、親子で持てる取り組みがあればと思う。
親から離れて、インストラクターと子ども達だけでのキャンプの実施。
親元を離れてのキャンプや合宿などで、子供たちの自立心や、協調性を高めることができるのではないかな。
地域と学校が連携し、夏(秋)まつりを開催し、子供達が自宅(保護者)を離れ、友達と一緒にブースを巡ったりして遊ぶ姿、子供の生き生きした目が忘れられない。このような場(しかけ)を地域、学校、行政が一体となり作ることが必要と思う。
個人であるいは仲間と一緒に様々な活動を通して自分自身で考え活動する取り組みが必要である。失敗を受け止め糧にして次の活動への意欲を引き出す指導も必要である。
一人ひとりの子どもの長所を伸ばしてあげられる活動。子ども食堂のような誰でもいつでも入っていける施設(一緒に勉強や遊び、相談できる大人がいる)があれば子どもとも交流ができるのでは。
相手の立場を理解して他者とのかわり方を知る機会を作ること。
人と人との関りの中で相手の思いに気づきあい、育ちあえる集団づくり。
1つのことを多くのメンバーで取組めるような活動。
友達の中で自分の思いをしっかり伝えることが出来るよう子どもの声を聴く機会を大切にする。何でも言い合え、お互いを認め合える子ども集団を作る。
子どもたちが気付いたり、考えたり、工夫したりする環境を整え、様々な経験をする機会を与え、子どもが自由に、心を動かして、興味や関心を持ったり、仲間と協調しながら、意欲をもって取り組む力を育てる。

自己分析と自己紹介を通した他者への関わり方。
子ども一人ひとりの将来に向けた希望を把握し、同一希望者同士のグループ研究等。

社会のルールを理解すること・守ること

社会の基本的なルールを理解させること。
世代間交流を通じて、社会的知識(ルール)を習得する。
子どもが社会のしくみ等をわかる様に、例えば枚方市の広報などで子ども向けに発行したりするのはどうか。
規則を守ったり、善行を行うことで成功体験をし、それを親や先生にほめてもらう事で自信をつけさせる。
集団での一定のルールを守ることがまず大事であるが、子どもがその中で自ら考え行動できるような取り組みが必要。子どもは、子どもの中で育つのだろうが、全ては大人との信頼関係に裏打ちされているように思う。子どもを大人も信頼する気持ちが必要。

自分で考え行動すること・自分で決めること

子どもが自分で考え行動し、決定する機会をつくること。(10 件)
子どもの行動を見守ること。(3 件)
自分の行動を自分自身で決める。自分自身で決められるように安心・安全な環境を作っている。進路を自分で選択できるようにいろいろな情報を持ちながら子どもと接している。
子どもたちが自分たちで考えて行動できる場の機会を増やす。今の子どもたちは人に関心が薄い。周りの人のことを気にしたり考えたり、みんなが気持ちよく過ごせるにはどうすれば良いのかななどをじっくり考える時間を作る。
大人の支持待ちにならないように、子どもが自ら行うことはまず、見守るようにしている。子どもの思いを受け止め、矛盾が生じた時には、友達や大人と一緒に考えるようにし、自分でできた達成感を大事にしている。これが、次への意欲に繋がると思っている。
子どもが成長していくという事は自分で主体的に取り組もうとすることであるが、そのことのみならずひとり一人の子どもの成長につながるよう努めることが生きる力につながる。
自ら遊びたいことを選択できる環境やそれが言える信頼できる大人との関係づくり、仲間たちの存在が大切。そのためにはより丁寧な関わりができる小グループでの活動保障と人的環境は必要と感じる。
日常的な取り組みの中で、子どもが自分で決める、決めたことを実現できるように大人がサポートする。子どもの「思いや行動」の先取りを大人がしない。子どもが主体であることを常に念頭に置く。そのためには「間」を持った関わりをする。
スケジュールの理解や活動の切り替えなどの行動管理がとても必要だと思う。 大人が指示して動くことや周りを見て理解することだけでは、大人になった時に手がかりになる人がいなければできなくなるため、子どもの頃から主体的に行動できるような支援が

必要。また、身辺スキルについても、大人になってからは、教えてもらえないため、子どもの頃から自発的、自立して出来るように支援することは必要であると考え。
答えのない課題により多く接する取り組みが必要だと考える。自分以外の考え方や課題解決する方法などを多く知ることが大切だと思う。
幼稚園でいうならば、考えたり試したり、工夫したりしながら取り組めるような活動ができる環境構成や保育内容を行っていくことが大切だと感じる。また、そうした活動ができるよう十分な時間、空間を保障していきたい。

自分の考えや意見を発信すること

子どもが積極的に発言できるよう指導する。
子どもの声をまず聞いて、それに対して親が協力しなくてはならない。
授業の取り組みの中で子ども一人ひとりが主体的に活動できる場面や発表できる場面を作っていく。
子どもに対して様々な場面で問題を投げかけ、考えさせる習慣を身につけさせる。また、自分の考えを発信する場面を作り、また人の意見を聞いて自分の考えを深める場면을数多く作る。
すぐに大人に頼らず自分で考え、自分の言葉でやりたいこと、イヤだと思うことを伝えられるようサポートする。
学びを与えられるだけでなく、子どもたちが考え、意見を出しあい、ソーシャルアクションにまでつながる取り組みが学校内でも必要と考える。例えば、地域の協力を得て、地域の生活課題を把握、調査し、その課題に対して自分達ができることを考え、実行し、地域の人と振り返る機会など学校、地域、ソーシャルワーカーの連携が必要だと思う。
今年度から全面実施の学習指導要領にもある主体的・対話的で深い学びの実践。
子どもが大人に向けた授業。

教育環境の整備

一人ひとりの子どもに対する取り組みでは大人の人数が不足している。責任のある職員を増やすことが大事。
子どもの生きる力を身につけることは本来教育の最も本質的な目的である。教育者は知識偏重にならず、子どもひとりひとりの心の成長を手助けしてあげて下さい。
教員の授業力の向上。
家族から保育所・幼稚園⇒小⇒中⇒高と社会性を広げていく中で、ありのままのその子を認めてくれる大人の存在が必要だと思う。そこに関わる大人の教育が大切だと思う。
学校、家庭、地域に依る教育推進。
保育士は子どもの思いを尊重しながら教育的な指導と子ども同士が、折り合いを付けられるような指導をしていくことが大切だと思う。その指導ができるように保育士のスキルアップ

プや学びが必要だと思う。
教育の改革(小学校から選択授業の導入など)。IT の活用。
子どもたちの将来のためには、教育を受ける環境の整備が何より欠かせず、その第一が、食の確保と考える。大阪市が行う学校給食費の無償化も一つの食の確保の形であると思う。中核市たる枚方市なりの食の確保策を講じていただきたい。
第二に、高校での就学の必要性である。大阪府の私立高校への就学支援などは、こうした収入格差の影響を緩和させる効果を生んでいるが、枚方市としても(生活保護のように保護者あてではなく)子ども(生徒)に直接助成できるような新たな施策を設けていただきたい。
子どもの主体的な活動・行動の手助けとして、材料・準備・安全な場所の提供。
子ども自ら「やってみたい」と思える興味ある活動内容、教育内容を用意すること。そして、大人が先取りしないこと。そのための大人の意識改革が必要と思う。
中学校を卒業したあと、子どもが自立に向けて進んでいく際の支援が必要だと感じる。
公的援助を充実して経済的不安を無くすことで、進路を変えないことを目指す。
保護者へのケアができる人員の配置の必要を感じる。

その他

子ども自身が、好きなこと、あこがれや夢が持てることが大事である。
保護者が子どもに向かう主な姿勢が、子どもを「守ってあげる」から「ひとりで生きていく力を育む」になれば良いと思う。
同じことが親にも言えるので、まずは両親のケアが必要ではないかと思う。
早い段階での親の子離れと地域での見守り。
大人の言葉かけで、上から「～しなさい。」「～しないとだめよ。」など命令口調で言うことは避ける。
生きていく為に必要なこと、受けて当たり前の権利は何かを話す。自分で出来ることと大人に助けてもらってできることがあるということ、困ったことがあれば相談してもいいこと、又、相談できる場を教える。
主体性と自己中心との違いを理解させること。

質問③

核家族化が進む中、保護者だけで子育てを抱え込むことなく、周りの大人を含めた地域全体で子育て家庭を支援するためにはどのようなことが必要だと考えますか。また、そのためにできる取り組みはどのようなことがありますか？

○地域との連携や関わりを持つこと、コミュニティなどの地域活動を活性化することが必要であるという意見が多かった。また、そのために日ごろからの声かけや、地域で子ども育てるという意識を持つことが大切であるという意見が多かった。

○気軽に相談・情報交換できる場を提供することや、保護者と信頼関係を築くことが必要であり、取り組みとして、保育所(園)での園庭開放等への参加へ促すことや子育てサロン等の充実が必要であるという意見が多かった。

○相談支援機関の充実と、そのような相談支援機関や相談窓口の周知や情報提供が必要であるという意見が多かった。

地域と連携すること・地域活動の活性化

保護者が地域との連携・関わりを持つこと。(14 件)
コミュニティ・自治会・子ども会などの活動・行事などを活性化する。(10 件)
声かけや挨拶運動の実施。(4 件)
地域で子どもを育てるという意識や応援する心をもつ。(2 件)
子育てに関する情報提供をコミュニティ・自治会で行う。(2 件)
地域で子どもを支える人材を増やす。(2 件)
地域、町内などの中でもさらに小さい単位でのグループ分け。そこに世話人的な人が継続的にかかわる。
地域内で信頼関係を築くこと。そのために、地域で行われている子育て支援事業を予算も含め、充実させる。
地域の高齢者も同じように孤独になりがちなので、高齢者と子供と一緒に食事をとれたり、関わったりする場を設ける。
子どもや保護者からの相談に応じられる地域での環境作り。子どもを守る地域ネットワーク機能強化。
今の子育て世代は想像以上に転入家庭が多く、まだまだ地域に溶け込めていないので、地域で地域の子ども(子育て家庭)を守る。顔の見える関係や声をかけあえる関係は、もう自然には発生しないので、工夫をして「地域力」をあげる。
地域が無関心でなくなれば、子育てしやすい街になり、少子化にも歯止めがかかる。
日頃から行政と地域との連絡会などをし、子育て家庭の把握をする。
公民館などを開放し、地域で面倒をみる体制の構築。

子ども達が家庭を離れ、友達と遊べる場作りを地域が中心となり、学校と連携し、行政の支援を受けて実施したい。
「支援が必要」と当事者が発信しないと地域では見守る事しかできない。教育機関、行政からの情報提供を求めたい。
地域コミュニティと自治活動を連動して生きる喜びを感じる活動を継続できるかが重要。子育て陽だまりの様な集いを各地域で日に1, 2回位できればもっと状況も把握でき、保護者同士の交流もできるのではないかな。

交流の場の提供・居場所づくり

気軽に立ち寄れ、相談・情報交換できる環境・場所の提供。(10 件)
保育所の園庭開放や地域子育ての取り組みに参加を促していく。(8 件)
常日頃から気軽に相談できるように送迎時、懇談時などできるだけ保護者に声をかけ、話しやすい状態を作り、信頼関係を築く。(7 件)
子どもを介した家族(保護者)間の交流。(4 件)
子育てサロンの充実。(3 件)
「子どもの育ち」を共に悩み考え寄り添うことができるよう取り組むこと。
SNS を利用したコミュニケーションや発言場所を作る。
子ども食堂やお茶会、料理教室など楽しみながら、まずは顔をつなげていけるような場があれば参加しやすいと思う。
全国的に「子ども食堂」等の支援は広がってきている。どこかで頼れる居場所の提供は民間だけではなく 公立の支援も必要と感じる。
他人の子どもでも愛情を持って叱る事のできる社会、環境づくり。子ども食堂や寺子屋の開設。
地域の図書館などで親が不安を表出できる場を設ける。
各校区に育児や発達等の相談が気軽に行え、居場所づくりとなるプラットフォームが必要。
地域で子どもを持つ親同士のつながりを持てるよう、具体的な方針を考えてほしい。
「いきいき広場」の充実、児童の特性、感受性を誘引する集いの開催。
子どもだけでなく、大人の居場所作りが必要。

相談・支援体制の充実について

相談機関の充実。(3 件)
行政が家庭に関わっていく。(2 件)
LINE やツイッター等ですぐに身近に相談できるような仕組みづくり。
どの地域でも北部リーフのように、ささいな子育ての悩み相談が誰でも気軽にできるようになると良いと思う。

ファミリーサポートを使いたいと入会する子育て家庭は増えているが、提供する側の会員がそれほど増えていない。地域の偏りも大きいので、もっと地域に認知されることが必要。
ファミリーサポートが行っているような相互援助活動の対象年齢の幅を広げ、行政の資金を投入し、大きな支援機関を作してほしい。
ファミリーサポート。
ショートステイ、トワイライトステイの利用、一時預かりや休日保育を増やす。
妊娠時からのサポート体制の充実。
体力的、精神的につらい時、気軽にサポートを頼めるシステム、気軽にサポートできるシステムがもっとあればと思います。
外に出ていけない母子への支援が進むことを願う。
妊娠期から就学前までの子どもの健やかな成長、発達の支援はもちろん、父、母、兄弟姉妹、家族全体の心身の健康サポート等を制度として行う必要がある。
お助けボランティアやお迎えジジ・ババ制度の確立。
子どもにとって『親は親』であり、他の大人が保護者に代わることは当然できない。あくまでも代わりではなく、親が親であるような支えが必要。
子育て家庭からの支援の要請の声が上がりにくく、また、困難な状況になっても逆に隠してしまう保護者もいる。これらの保護者に対して行政の側からアプローチできるような機会やルールができれば、これらの保護者に対する支援は今よりずっとしやすくなる。
子どもの特性に応じた支援の充実するために、早期での発達検査等の実施。
市の相談センターや見守りの充実。
保健師の数を増やす→新生児期からの赤ちゃん訪問の数を増やす→入院で気になる子は病院からサマリーを送るので訪問をしてあげて欲しい(もっと密に連携を)。
青少年育成指導員制度を再編して強化し、枚方モデルの「子ども委員」制度を条例に明確に位置付けて設けるべきと考える。また、「子ども委員」や主任児童委員、民生委員・児童委員による地域における子育て支援をサポートするため、市全体ではなく、もう少し小さい単位の支援体制の構築と、介護予防・日常生活支援総合事業の第二層協議体のような情報共有・対応の仕組みづくりが求められる。
未就園児教室の充実。

情報提供・周知活動について

様々な相談支援の窓口の周知・情報提供。(12 件)
様々な悩みの事例を公的機関のホームページで紹介し、経験者、克服した「わかってもらえる人」に話を聞いてもらう窓口を設ける。
病院に来院時、役所に来院時、保育所に来院時など、タイミングを逃さず必要な情報を提供できる環境が必要。

子育て相談掲示板を立ち上げに取り組む。
子ども食堂やフリースペースを積極的に行政や学校から広報することで、困っている家庭に情報が伝わると考える。
参加型のイベントを考え、同じ悩みの家庭があること、共有できることをアピールする。
イベントを行い、その中で、SOS のポスター掲示やアンケートを実施する。
妊娠期から子育てできる「広場」「拠点センター」を知り、アプリを使って市の情報を得られるシステム作りがあれば、切れ目なく繋がっていけると思う。育児のスタート時期に地域支援に出会えることは虐待の予防になり、少子化対策になると思う。
核家族化が進んでいるからこそ、家族の繋がりの大切さを伝える趣旨での家族参加のイベントを市が計画、実施してはどうか。
幼稚園で育児相談にいつでも応じていることをアピールしていく。
保健師や心理士の方を派遣し、保育参観等と絡めての保護者向け子育て講座や講演会を開く等の啓発活動はできないだろうか。

各機関の連携

幼・保・小・中の連携。
子どもの成長にとって大事なものは幼稚園、学校、家庭、地域が一体化となり子育てをしていくことである。
病院⇒保健所⇒園⇒小・中と繋げていく取り組み。 問題を抱える家庭を早く見つける⇒地域や学校との連携強化。
子どもや保護者の方をサポートするためには、点ではなく、面で支える必要があるため、関係機関が連携していくことが必要だと考える。
公的な機関が中心となって、子育て支援のセンター的役割を担っていく。地域や諸機関との連携も果たし、そのための専門職を配置する。(地域子育てコーディネーターなど)
子ども家庭相談センター、保健センター、子どもの育ち見守りセンター等、関係機関との連携。
課題がある場合は家庭、学校、専門機関、行政が連携し、子どもに寄り添い、きめ細やかな支援を行なう。また、市として人材を確保し、支援体制を整える。
子育てに悩みを抱えた時には、一緒に考えながら、他機関との連携も取りながら、各家庭が子どもたちを大切に育てられるようにする。
母子・父子家庭への支援。子どもへの支援はしっかり保育所で行っていくが、問題を抱えたケースの保護者支援は、それぞれの専門機関がしっかり見守り対応してほしい。その上での連携を十分行うのが大事ではないか。
情報共有すること。
赤ちゃん訪問から次の段階へとつながる連続した取り組みも必要。

保健センターの検診時の親子の様子など、関係機関と情報共有できることは教えてもらったり連携を密にしたりして、入園時や入園後に知っておくことで、保護者へのサポートの足掛かりにしていけるのではないかと思います。

その他

民間の協力も得て、行政と連携を取って、安全確認(家庭訪問)をまめにする。
個人が尊重され、なかなか家庭には、踏み込めないところもあるが、大変な家庭を作らないためには、関わっていける機関や地域を増やしていく。
職場にも預けられる保育環境。
育児相談員が家庭を訪問できる環境。
ケースワーカーや MSW(医療ソーシャルワーカー)の協力を得て、家庭での支援の必要性を早期に把握し、取り組んでいく。
初めての出産を控えているプレママをいち早く「子育て家庭」のサービスにつなげることが必要だと思う。
多様化する価値観を認め合える子育て支援。
周りの人に頼っても良いと思える意識を変える努力。
親以外の人に子育て支援をしてもらうことも重要だが、親を孤立させないことが重要。保護者に子どもの姿を通して喜びや自信をつけてもらい、また、保護者自身の話題にも心寄せていくことを大切にする。その中で、悩みやしんどさ等が出しやすい安心感につなげ保護者の話に耳を傾ける機会をもつようにする。
子どもたちを地域で守っていくためには、地域の学校が中心的な役割を担っていくことが大前提。
子どもたちが毎日通っているのは学校、暮らしているのは地域であり、学校と身近な地域を結ぶ取り組みを授業の中でもっと取り入れていってはどうか。
共働き世帯が増える中、子育てをする親が地域ではなく働き先にいる時間のほうが長くなっているため、地域や企業と保護者の間で相互理解が必要では。

質問④

子どもの課題が多様化する中、より良い支援を子どもに届けるためには、さまざまな分野の情報や人材、ノウハウ等を連携させることが必要ですが、連携する際に困ったことはありますか？困ったことがあれば、具体的な事例と連携にあたって必要と思われることを教えてください。

○各機関・各分野で密な連携をとることや日ごろからの関係づくりが必要であり、そのために情報交換の場を設定することが大切であるという意見が多かった。

○連携する際の問題点として、子どもに関する情報について、個人情報の壁があり、連携が難しいことがあるという意見が多く、そのための情報共有システムの構築が必要であるといった意見も見られた。

○各分野で連携するためには、人員の増加や人材育成、緊急時に対応できるような体制の整備が必要であるという意見が多かった。

各機関・各分野での密な連携・関係づくり

関係機関と密な連携をとること。(12件)

それぞれの立ち場で大事にしていることや取り組み方は違うと思うので、お互いの立場や思いを尊重し合える関係づくりが大切だと考える。

子どもの支援と親の支援が別の連携機関になることもあり、子どもと親を丸ごと見て支援することが難しいと感じることもある。

他機関との連携の大切さはわかるが、それぞれの役割を明確にしてほしい。

幼・小・中・高と一貫した支援のため、連続した教育支援計画を作成し、医療、保健、福祉、教育分野などが共有する。

保育士、教師がお互いの学校や園を行き来できる環境も必要である。

枚方市の保育所の障害児保育の実績が、幼稚園・小学校と十分繋がっていないことが残念に感じることもある。

保健センターで実施される乳幼児健康診査が保育所保育と密につながると救われる子どもや親が増えるのではないかと(早期発見ができる)。

地域の連携とすぐに対応できるシステム作り。

対象家庭に関わっている組織間での、温度差を感じることもある。

様々な立場の方々がおられ、多様な意見がある中で、取りまとめることが大変である。

健診結果と集団の中での日常の姿を絡めながら保護者に話すと気になる部分も伝わりやすい。せっかくの発達の節目での健診であるため、そこへの手立てを逃さないために関係機関で連携し子どもの発達を見守っていけたらと思う。

関係機関等へつなげたくても、いろいろな感情にとらわれていて、他人の介入をこばむ方も多い。

子どもの育ち見守りセンターを中心とした各関係機関の相関図やチャートがあれば良いと思う。どのような機関が子どもの育ちに関わっているか等、各機関の関係が理解しやすいと思う。

各分野での情報交換の場の設定

各分野が情報交換や共有する場を設けること。(7 件)
定期的に医療機関、保健機関、福祉機関、教育機関が顔を合わせて情報交換や課題に対するアプローチ方法などについて協力していくべきだと考えている。ZOOM や GoogleMeet をつかうことで時間的な制約はかなり軽減されると思う。
他業種は一貫した方針の中でどのような事を行っているか把握。その上で補い合い、出来る事を探し見つけていく。
子どもの抱える課題について、広く地域関係者を交え協力体制について議論が必要。
各機関の連携を一層推進するためには、保育所勤務の保育士も、それぞれの分野を経験するか、それができないならば、交流できる機会をもっと多く持つ必要があると思う。
就学前、就学後で主となる担当機関が変わるため、継続的な支援を行うため、早い時期でのケース会議等を行う。
地域の子育て支援会議が半年に一度あり、そこで地域の子育て機関と連携を図ることができ、大変ありがたく思っている。
病院と保健センター間のやり取りが見えにくいため、お互いどんなケアや子どもへの対応をしているのかの勉強会等を開く。
CSW が要保護児童対策地域協議会に入っておらず、要対協で共有された支援の方向性を知らずに、孤軍奮闘することがある。要対協の場で互いの支援や動きを共有することで、家庭丸ごとの相談支援につながると思う。また、定期的に関係機関と個人情報遵守の研修も必要だと思う。

子どもに関する情報の共有・一元化

個人情報の壁の問題があり、連携が難しい。(9 件)
各分野間で情報共有できるシステムの構築が必要。(4 件)
ICT の活動を積極的にしてほしい。
個人情報を一元化し自由に行き来できる風通しのよい連携が持てればよりきめ細やかな保育、教育につながる。
幼・保時代からの情報の蓄積。
誰が見てもわかる内容、共有の仕方が必要である。例えば、年齢ごと、もしくは乳幼児・小学生・中学生といった区切りで継続されたその子どものファイルがあるとわかりやすい。
自分たちの分野のことだけでなく、他の分野の情報や支援を知っていき、その家庭の二一

ズに合わせた支援につなげられるようにしていく。
虐待ケースなどを行政につないで終わりではなく、先のことも考えた情報の共有化、連絡が必要であると思われる。
一方的な情報を聞くだけでなく、子どもの情報をフィードバックして子どもの情報を知らせてほしい。情報共有して、それぞれで支援していきたい。
情報提供はするが、その後どうなったか、どう対応されたかなどは教えてもらえないので、次にフィードバックすることができない。
情報の伝達が双方でできれば、適切な支援をタイムリーにできるのではないかと思う。
介入児には、入院時に必要な情報が入りにくい。
個人情報保護法ができて以来、どこの機関も子ども第一主義ではなく、法律第一主義で連携が取れにくい現状がある。以前なら子どもを守ることを第一義的に連携施設は手を結べていた。子どもにとってどうなのかを考えた時にいつも矛盾を感じている。法律を越えて子どもの最善の利益を優先すべきだと強く願っている。
親が社会を当てにしていない場合、個人情報の問題が常に問題となる。子どもは社会で育てると考えるのならば、「個人情報の保護」という概念は連携する団体間では緩やかにするほうがいい。

人員の確保・体制の整備

人員の確保・人材育成が必要。(5 件)
夜間や休日などの緊急時に対応できる体制の整備。(4 件)
連携する手段を探ったり、連携するための時間を捻出する必要がある、そのため、保育準備などの時間が少なくなってしまう。より連携するためには、専門の担当者が必要である。
信頼される窓口となる「人」が必要。
各分野への連携を整理するために、相談窓口やコーディネータを設置するのはどうか。
子どもの育ち見守りセンターの充実。
子どもの育ち見守りセンターの権限を中央子ども家庭センターと同等に
医療面において、病児保育を受ける体制が出来ており、働く親にとっては有りがたいが、0.1.2歳の乳児が預けられた時に体調が急変した時等を考えて、年齢は何歳以上から等の区別を作ったり、また、子どもが熱の時は休める職場の体制、社会の体制を整えて頂きたい。
枚方市は中核市であるが、現時点で児童相談所(子ども家庭センター)を設置していない。また、市内には児童養護施設や乳児院などの社会的養護の必要な子どもを受け入れる施設も無い。子育て世代が孤立する中で、不幸にして児童虐待事案などが発生した場合には、無条件で親子を遠く引き離す状態になってしまうことになり、地域でも実際にそうした例を見てきた。本当に子どもを守ろうと言うのであれば、そうした施設整備に向けたビジョンを示すべきと考える。

持続した運営の為に自立した収益性が確保できる、開かれた形で運営されるプラットフォームが必要では。
子どもが病気をした時に、急に仕事を休めない、頼むところがない、小学生でも病児保育のようなものがあると助かる。

その他

地域のコミュニティ強化。
支援を行うためには保護者へもアプローチが必要だが、保護者も隠そうとしたり向き合おうとしなかったりする。経験の浅い保育士からアドバイスをされると強く拒否感を示し、クレームとなることもある。
子どもに対しては保育園の在籍期間は食事や生活のある程度は保障できるが就学すると難しくなる。園でのケアが学校では難しいと言われる。
見守りや一時預かりといった場合の病気やケガの対応とその保障問題。
情報弱者の救済。全ての人インターネットを使用できるわけではないと思う。
定期的な保健所からのサポート。
子ども食堂専用の医療窓口。
子ども食堂や子ども向けイベントへの児童指導員の参加。
「ひこぼしぶっく」の周知徹底および、すべての保護者にブックを配付。
検診を受けないで保育所入所が決まり、入所してからつまずきを抱えている子どもに気付くことも多いので、どこか早い段階で必要な手立てが講じることができるのがベストだと思う。
「通院しましたか？」と学校、児童会、保育所(園)、幼稚園などが声かけし、ボディチェックができるようにうながす。
保育所(集団保育)に入るまでに予防接種ができていないケースがあり、専門機関での把握、指導を願う。
連携成功の3要素(人・情熱・機能的)。

質問⑤

その他条例についてのご意見等があればご記入ください。

条例制定について

この条例が、子どもが健やかに、また、自尊心を持って大きく成長できるように、良い形で繋がっていけば良いと思う。

この条例制定により、真に子どもの最善の利益を守れることを願っている。乳幼児保育・教育施設で働く我々は、これを深く学び子どもの最善の利益へ繋がるよう力を尽くしたいと思う。虐待で命を落したり、心身を傷つけられたりする子どもが無くなることを願う。行政主導で学習会を開き、条例の神髄を周知し子どもを守る事を第一義的に連携施設が手をつなげるよう指導していただきたい。

今の時代、指摘や苦情は遠慮なくされるが、そういった頑張りを認めたり、褒めてもらったりという機会が少なく、大人も子育てに自信が持てないように思うので、もっと認められて、大人も子育てやその支援が頑張れる、楽しめる条例ができることを願う。

今回、枚方市で条例を制定して、子どもたちを守るという明確な姿勢を示していくこと、教育に携わる者として心強く感じる。子どもを守り支えるためには、保護者のサポートが必要不可欠だと思う。そのために私たちも努力を続けていきたいと思う。

このような条例を制定し、枚方市として取り組まれることはとても素晴らしいことと思う。子ども一人一人の将来を見据えて、支援に取り組む一員になれたらと思う。そのため、各機関と連携できる場が広がればと思う。

条例によって子どもが虐待により生きる権利を奪われることがないようになれば良いと思う。子どもは親を選べないので、今だに親が自分の子どもの命を奪う事件が絶えないのをニュース等で見ると怒りを覚える。早期に条例制定を望む。

子どもを守ろうとする各機関の気持ちや方向性は絶対に間違ったものではないし、いい方向に向かっていると感じている。そういう意味では本条例の制定は子どもを守る大切な後ろ盾になると期待している。

条例の内容について

基本理念を読むと、大人が守るべき条例に思える。子どもが一人称になるべきでは。

権利と義務は表裏一体。自由・平等と責任は表裏一体であることを学校教育・家庭教育・地域教育で指導していくことを条例又は要綱等で反映できないか。

子どもを守る条例には子ども中心の考え方になっているが、その子を育てる親がどうあるべきか、支援していくべきかが問われていない。保護者への支援を具体的に条例に取り入れるべきではないだろうか。

”子どもの人権を尊重することを基本に”とは観念的過ぎないか。

この条例によって、具体的にどのような施策が進められるのか、あまり読み取れない。

基本的な考え方において、「支援を要する子ども等に関する情報」を「市の関係機関を横断して共有、活用」するのみならず、「家族の情報を共有、活用する」としており、実際に情報共有に向けたシステム化に着手されているが、こうした情報共有・活用について「必要性を示し、市民の理解・協力を求める」ことが理念条例に必要な事項なのかどうか疑問を感じる。特に、家族の情報を必要と考える背景に格差(貧困)の連鎖を前提にしているような意識がないかどうか、今一度吟味していただきたい。
・市政運営方針によれば、条例の制定の目的は①子どもを虐待などからまもり、②全ての子どもが一人の人間として尊重され、③夢と希望を持って成長していけるよう、④社会全体で子どもたちの成長を支える環境づくりを進めることと読める。提示された基本理念(案)では「①子どもを虐待からまもる」が弱いように思える。 ・この条例の制定によって新たにすすめる施策が明確でない。新たな人員と予算をどのくらい確保できるのかが、実効性のある条例となるかのポイントではないか。実効性のある具体的な施策として何が出てくるかを期待している。すでに実施されている関連施策の充実と新たな啓発のみであるとする、この条例を制定する意味は大きくないと思う。 ・各主体の役割が不明確なので、もっと明確にして欲しい。各主体を取り纏める擁護部署が枚方市の中に必要ではないか。 ・この条例は現在本当に必要なのか疑問に思う。形式的に条例ができて、枚方市の中でも地域ごとに子どもたちの状況や保護者の方々の意識も違っているので現実とはかけ離れている。
子どもの権利条約で指摘される日本の現状をどう落とし込んでいるのか分るよう(感じるよう)にして欲しい。

体制の整備について

ひとつの場所で包括的に支援ができる機関を作って欲しい。例えば、医療・保健センター・子どもの育ち見守りセンター・子育て支援拠点などの行政や民間の施設が一つになっている場所。
子どもの問題はつまり家庭の子育て・教育・社会の問題である。枚方市は今までも深く取り組んできていたので、今更なぜ条例に？というのが正直な感想である。しかし、各分野が一層連携していくことは必要なので、改めて推進されることを望む。また、経済的支援、支援の人材育成と増員、相談機関の時間の見直しもお願いしたい。
子どもを取りまく社会状況はより複雑、多様化して日々変化している。子どもの生命を守り、心身ともに健やかな成長を支えるために条例を制定し、行政が率先して子ども達のおかれている状況を把握し、課題を解消するための具体的な支援、啓発などの政策を実施されたい。
大阪市西成区にある「子どもの里」のような施設があればいいと思う。困った保護者や子どものかけこみ寺を作してほしい。

条例を作ることは大切なことだと思うが、いじめ防止、虐待防止については、法律に定められる中に、学校として義務を負うことが多くあるため、条例を具体化する中で、更に学校としての義務が増えるのなら、専門家等の人員の配置が必要である。
条例制定にむけての人員的な充実をお願いしたい。
各家庭への関与がどの程度可能なのか。どの機関が率先して介入するのかをはっきりしてもらいたい。
連携を一層推進するための具体的な方策を示してほしい。

周知・啓発について

当事者である子どもたち自身が、枚方市ではこのような条例で守られていることを知る必要があるため、子どもの権利ノートのように、小学校低学年でも理解出来るような平易な表現の子ども向けのバージョンがあるとよいと思う。
大人も子どもも知らないことが一番の問題。知る為のPR 学習に手をぬかない事。救急法と同じくネット社会についても周知が必要。
近所がよく知ってる人が誘拐、いたずらなどの事例もあるので、信じすぎず、防犯の意識も常に持つよう指導が必要だと思う。
将来、日本を背負って行く若者につき、孝行柔順、勤勉などの修身や道德等の教育を行うようにしてほしい。
すべての原点は充実した地域ネットワーク活動を連携した初期学校教育による。
子どもを守る条例も必要ですが、子どもを育てる地域の役割等の指導をお願いしたい。
個人情報保護の壁があり難しいと思うが、情報の共有がスムーズに出来れば解決できる事が沢山あると思う。保護者、親権者の意識改革、制限を行政が取り組んで頂きたい。
条例について正しく理解し、子どもの育ちを見守ることができるよう、関わる大人のスキルアップが必要だと思う。

その他の意見聴取結果について

大阪府立枚方高等学校でのワークショップ

- ・子どもの健やかな成長のために必要なこととして、「常に子どものことを気にかけること」、「相談しやすい場所をつくること」、「自分の意見や考えを言える機会をつくること」という意見があった。
- ・「保護者は、子どもとコミュニケーションをとるなど、子どもが安心して生活することができる家庭環境をつくるのが大切であるが、保護者だけでは大変なので、保護者へのケアも必要であり、地域で支援していくことが必要である。」という意見があった。
- ・取り組みとして、「放課後子ども教室や子ども食堂の充実等、子どもの居場所づくりが必要である。」という意見があり、また、そのためには「企業の協力も必要である。」という意見があった。
- ・子どもの主体性を育むためにできることとして、「他人の個性を尊重すること」、「困ったことがあれば相談すること」、「人との関わりを大切にすること」という意見があった。また、「不登校の子どもには、気を遣いすぎないことも大切である。」という意見もあった。

枚方市社会福祉審議会 児童福祉専門分科会

- ・「現在、市内の子ども会が減少しており、今後、地域全体で支援していくためにも子ども会の充実が必要ではないか。」という意見や、「用語の定義については、範囲等に誤解が生じないように厳密に位置付けていく必要がある。」という意見があった。
- ・現在構築を検討している(仮称)子ども見守りシステムの目的や情報共有を行う対象、システムの構築と条例との関連性についての意見があった。
- ・行政内をはじめ、保護者や地域、学校などと連携を推進していくことの必要性についての意見があった。

枚方市青少年問題協議会

- ・子どもに関する情報の共有について、「(仮称)子ども見守りシステムの構築は情報共有を行う上での第一歩になると思うが、個人情報の取り扱いについては厳密にお願いしたい。」という意見や、「支援が必要な子どもが他市に転居する場合もあるので、子どもの課題について、他市と連携できる体制も必要である。」という意見があった。
- ・「保護者の中には子育てに難しさを感じている人もいるため、保護者への支援についてもしっかりと条例に盛り込むべきである。」という意見や、「困ったときは相談できる場所があるという安心感が持てる環境にしてほしい。」という意見があった。
- ・条例制定後、「大人はもちろん、子どもにも条例の趣旨を伝えて、子どもが枚方市に誇りを持てるようにしてほしい。」という意見や、「子どもや保護者の相談先について、より明確に分かりやすく周知すべきである。」という意見があった。